

神奈川県立鎌倉高校同窓会会報

あしお

第 34 号

特集 話題の人



雨奇晴好 ～長谷寺～  
丸山晶子（昭和63年卒業）

## 目 次

会長ご挨拶 ……………	3	物理科学部「県立鎌倉高校無線部」の思い出 ……	23
鎌倉高校の近況（校長） ……………	4	江ノ電 鎌倉高校前駅 ……………	25
特集：話題の人「西島剛志」 ……………	5	鎌高卒、若き優れたアーティスト ……	26
在職中の鎌高の思い出 ……………	11	部活動報告 ……………	33
職員人事異動 ……………	13	進路状況概況 ……………	40
私のお店紹介 ……………	14	会計報告 ……………	41
わくわく キッズ コンサート ……………	16	協賛金納入者 ……………	42
同窓会・クラス会 ……………	18	総会案内 ……………	46
還暦野球で「自分」再発見 ……………	21	役員名簿 ……………	47
いつまでも、サッカー少年！ ……………	22	編集後記 ……………	47

題字：増田隆子（旧姓／小島 昭和 41 年卒業）

表紙：作者略歴

## 丸山晶子【まるやま あきこ】（昭和 63 年卒業）

神奈川県藤沢市出身 藤沢市在住

小さな頃から絵を描くことが大好きで水彩画、油彩画、パステル画を趣味で描き続けてきた。その後京都で染織を学び、型染めや藍染めを中心に制作。

自ら名付けた“型絵染画”とは型染めの技法を取り入れつつ、彩色では単に色を染めるというよりは描くという絵画的な表現方法を使っている。湘南の四季の風景を主に制作。

2008 年鵜沼桜が岡にアトリエ兼ギャラリー“あとろえ梅庵”をたちあげ、個展やグループ展、イベント、ワークショップも企画開催している。



## あの部室が

会長 鈴木 勝貴  
(昭和45年卒)

青葉をわたる  
夕風のこころよ  
く感じる季節。  
皆様にはますます  
すこ健勝でお過

ごしのこととお慶び申し上げます。

一昨年の総会で承認を得て「神奈川県まなびや基金」に300万円の寄付をいたしました。その基金を利用して部室の修繕を実施いたしました。しかしその金額では屋根部分の修繕しか行えませんでした。そこで昨年度予算のうち「部室等の修繕費」150万円を塗装工事、支柱修理、サッシ窓設置工事、体育館裏の草刈り等の整備、グラウンド照明取り付け費用に充てさせていただきます。

同窓生が経営する企業の協力をいただきました。株式会社林塗装店様、広瀬硝子建材株式会社様、株式会社小池造園様ご協力をありがとうございます。今年も続けて塗装工事、舗装工事等を実施していく所存でございます。皆様方の温かい気持ちで詰まった協賛金を有効に利用させていただき、愛する母校に恩返しをさせていただきます。

皆様には是非日坂を上っていただき、きれいになった部室をご覧になり、現役当時の思い出のアルバムを開いていただけたらと思います。今年の6月27日(土)にお会の総会が開催されますので、それを機会に足を運んでいただきたいと願っています。

会ではその他「卒業生への記念品」や「部活動の補助費」として指導者への支援、関東大会等の出場者への支援、「事

業費」として学年同窓会開催支援、部活OB・OG会開催支援等も行っております。会報での企業協賛を頂戴しております同窓生の皆様にはとても感謝しております。いつもありがとうございます。もっと充実させるためにも多くの皆様方からの温かいご支援を期待するところでございます。

3年後に90周年を迎える鎌校。2万4千人を超える卒業生排出。伝統ある鎌校にさらなる磨きをかけるべき活動を皆様と共に進めて行きたいと考えております。皆様方のご意見等も頂戴したいですし、お手伝いもお願いできれば幸いです。

最後に会員皆様方のますますのご健勝と鎌校そしてうしお会の発展を祈念し挨拶いたします。今後ともよろしくお申し込み申し上げます。



最後のページにカラー写真があります。

## 鎌倉高校に着任して

校長 眞壁 広道



4月1日付け

で、着任いたしました。

自己紹介を含め、ご挨拶させていただきます。

小田原城北工業高校から異動してきました。小田原城北工業高校は、二宮尊徳の生誕地である栢山にあって、足柄平野の真ん中、酒匂川のほとりで、富士山が大きく見える田んぼに囲まれた学校でした。高校の三年間で知識と技能を身につけ、自立した社会人となることを目指す生徒たちに関わってまいりました。工業高校との関わりが長く、その前も工業科のある高校でしたので、六年余り工業高校に関わったことになり、学校の中に工場や製図室

があるのが当たり前のよう過ぎてきたので、久しぶりに普通科の学校の校舎で生活して新鮮な気持ちを感じているところです。

長く工業にいたものですが、専門が工業とされる方も多いのですが、専門は社会科、世界史です。もともと現代史が専門で、歴史や社会に関する本を読んだり、講演を聴いたりすることがいちばんの楽しみです。昨年は第一次世界大戦から百年ということ、関連する本が世界中でたくさん出て、いくつかを読みました。現代史の原点として新たな視点、新たな切り口から書かれたものもあり、現在の状況との類似を指摘するものもあって、刺激を受けました。今年には二十一か条の要求から百年、第二次世界大戦が終わって七十年、バンドン会議から六十年など、いろいろな話題があつて

興味が尽きません。鎌倉と縁ができたので、鎌倉の歴史も読んでいけたらと思つています。生徒たちに話をしていくなかで、歴史の話を少しできたらなどと思ひ楽しみにしております。

鎌倉を散策するのが以前から好きで、年に何度か歩きましたし、これまで何度も鎌倉学校の前を通つたのですが、実際、こちらに着任して、じっくりものごとを考えるにふさわしい自然環境、歴史と文化に触れることのできる社会環境があつて、また、生き生きと活動している生徒たちの姿を見て、すばらしい学校だと改めて感じました。

入学してくるまじめで優秀な生徒たちを大きく伸ばしていきたいと思つています。今では大人になった自分の子どもを見て思つたことがあるのですが、まじめで謙虚だと、どうしても自信が持てなくて、自分の力はこのくらいと自分で決めて

しまうことがあるように思います。とくに今のよう、塾などでいつも評価があつて、周りとは比べながら自分の評価を気にしていると、自分の位置を決めてしまい、自分の分にあつたところがいいと思ひがちのような気がします。それも悪くはないのですが、この年頃は、ちょっとした出会いがきっかけとなつて、覚醒して飛躍的に伸びることがあるのではないかと思います。本物に触れて、どうしても学びたい、この学問を深めたいという気持ちを持つてほしいものだと思います。

鎌倉高校のためにこれから全力を尽くしてまいります。どうぞよろしく願ひいたします。

同窓会の皆様には、いろいろなこととお世話になつております。改めてよろしく願ひいたします。

## 特集

II 話題の卒業生 II

横河電機株式会社

代表取締役社長

## 西島剛志

## 寝ないで番をする

今回は、横河電機株式会社代表取締役社長に就任されて2年目になります西島剛志社長にスポットを当てました。

グローバル企業としての思いを熱く語ってもらいました。

聞き手…S41年卒 森田豊文



— 初めまして、「うしお」で編集をやっています森田と申します。よろしくお願ひします。

今日は、お忙しい中どうも有難うございます。

西島 こちらこそ宜しくお願ひします。

— 51年卒ですね。

西島 ええ、51年です。

— 鎌高時代は、何か部活をされていましたか？

西島 写真部に入っていました。

— 写真部ですか、担当の先生はどなたでしたか？

西島 渡辺渉先生と渡辺一雄先生だったと思います。ただ、先生方と一緒に活動することは全然なくて、部で合宿に行った記憶はありませんけど、それ以外は各自が自由に写真を撮りに行って、文化祭などで展示するような活動でしたね。

— そうですか。

西島 実家に古い引き伸ばし機があり、それがきっかけで写真を始めました。その頃白黒写真の現像や焼き付けを趣味でやる人が結構いて、ヨドバシカメラは、そんな道具や薬品を売って

いる店でした。もともと鉄道少年だったというのもあります。

— そうですか。

西島 多趣味だったので、いろんな事をやっていました(笑)、その一つが写真で、文化祭前になるとよく撮りに行きましたけど、あちこち出かけること自体も好きでしたね。

— そういえば文化祭で、写真色々ありましたね。

西島 当時は、会津の只見線や北海道に行けば、まだ蒸気機関車が走っていました。

— ああ、そうですね。

西島 あとは横浜にもよく行きました。外人墓地や埠頭のあたりとか、いいスポットがたくさんあり風情があったのですが、現在のみなとみらいになってから大分雰囲気は変わりましたね。

— 倉庫街の、あのレンガも昔は汚いところでしたね。今ももうすっかり変わってしまいましたね、まさかあんなに変わるとは思わなかったですね。

西島 まさかねー。

— じゃあ懐かしい写真が、いっぱいあるんじゃないですか？

西島 実家を離れて随分経ちますが、多分どこかに残っているのかなあと思います。

— ところで10年違いますが、同じ先生はいますかね。

西島 私を担当でした神川先生は、ご存知ですか？

西島 分からないです。私の担任は、梅津先生でした。

— 稲垣先生は？

西島 稲垣先生は、おられましたね。名物先生や鎌高が長い先生が、まだ当時はいらつしやいましたね、私が覚えているのは金指先生や阿部先生。

— ああ、阿部先生には習いました。

西島 地学ですね。

— 最近鎌高に行かれましたか？

西島 何年前だったか、確か2006年だったと思いますが同窓会があり、その時に訪問しました。対応に出てこられた先生が校内を案内してくれました。

— ああ、そうですね。あの頃だと、昔の図書館の奥の方、あそこが国際議会ホールになっていましたね。

**西島** 昔、あそこは食堂でしたね。

— そうでした。

綺麗になりましたね。

**西島** そうですね。

— 今度は部室が綺麗になったんですよ。

**西島** そうですね。

— 入って右の方に汚い、あれが気になっていて、今のOB会の会長と話してやっとお金がおりましてね。去年部室が直りました。

**西島** そうですね。

— 部室を直して、全部ペンキも塗って綺麗にしましてね。

**西島** そうですね。懐かしいですね。

あの部室の一室が写真部の部室でしたから。

— あそこにあったのですか。運動部だけじゃなかったのですね。今にも倒れそうなの。

**西島** ええ、すごかったですね(笑)。

— ところで、西島さんを紹介して下さった叢さんとは、

二、三年が一緒のクラス…。

**西島** いえ、一年生の時のクラ

スメイトです。これが面白いのですが、音楽仲間の繋がりがも

とで、全員が鎌高出身ではありませんが、今でも一年生の時のメンバーとは、毎年1、2回は集まっています。

— 音楽もやられていたのですか。趣味で。

**西島** 小中学校ではクラッシックギターをやっていて、その関係で音楽好きの仲間に入ったら、ドラムが面白そうなので高校一年の時ドラムを始めました。

— じゃ文化祭で。

**西島** 演奏しました、理科室の机がステージで。卒業後も十年

以上は続けていました。

— 色々趣味をお持ちだったのですね。

**西島** 先日も仲間から、鎌高の同級でジャズピアノリストの城田有子さんが、鎌倉のライブハウスのダフネに出るから集まろうとメールが来ました。残念ながら、私は行けませんでしたけど…。

— 鎌高の卒業生には、芸術関係の人が多くて、有名な方もたくさんいます。

**西島** そうみたいですな。

— 洋画家ばかり、日本画家も

しかり、音楽もそうですね。

**西島** 芸術家の方が多いという話は良く聞きます。

— 音楽はいいですよ。歳をとってもできますし。

**西島** そうですね。当時一緒に

やっていた同級生で演奏を再開している人が結構います。

— そうですか。親父バンドが流行っていますからね。

**西島** ああそうですね。

— 昔やっていた60歳を過ぎて、また集まってリサイクルとかを色々やっていますね。

**西島** まだ今は、再開出来そうもありませんが、時間にゆとり

が出来たら始めたいですね。

— 趣味が多くていいですね。

**西島** いや、大学時代や卒業後も三十数歳まではドラムを叩いていましたが、仕事がだんだん忙しくなってきたら、すっかり遠ざかってしまいました。

— ああ、そうですね。写真と音楽、それ以外は何か？

**西島** スポーツは、サッカーが好きでした。中学校はサッカー

部でした。

— そうですね。中学はどちら

ですか？

**西島** 鶴沼中学です。高校からは、地元の同好会に入って大学

までやっていました。サッカーやって、ドラム叩いて、写真撮りに行って、まあ勉強は、あまりしませんでしたね。

**両者** あはは(笑)。

— ところで、社長になられたのは、2013年ですね？

**西島** はい、二年前です。

— 二年経つとどうですか、一部上場会社ですし大変ですか？

**西島** そうですね、段々大変になってきています。

— 大変ですね。インターネットで会社概要を見ましたが、

計測、制御では国内の最大手ですね。

**西島** はい、ただ、売上のうち国内は3割くらいで、7割が海外

です。社員も6割が海外で、現在は世界56カ国、86社で事業を展開しています。

— ああ、そんなにあるのですか。

**西島** アメリカとヨーロッパはもちろん拠点がありますけ

ど、中東に千人くらい、ロシアにも四百人、東南アジア諸国はトータルだと四千人ちょっとかな。中国、インドも、南米も相当の数の社員がいて、最近はアフリカに展開中です。計測器や航空・船用機器事業もやっていきますが、メインは、石油、ガス掘削から石油精製や天然ガス、化学品、発電、鉄鋼、紙パルプ、薬品や食品などのプラント生産設備の自動制御と運転監視を行うためのシステムを組み上げる仕事です。センサやシステム製品などのハードウェアとソフトウェアを開発、製造して収めるだけでなく、夫々のプラントに合わせてアプリケーションを実装して、他社製品も一緒にシステム全体をつくり上げるエンジニアリングという仕事が必要です。そうした仕事をするエンジニアが世界中に大勢おり、四、五千人位はいると思います。

— ああ、そうなのですか。大変そうな仕事ですね。

**西島** プラント設備は24時間365日稼働させますので、サ

ビスも重要です。簡単には止められないので、お客様のプラントの現地の近くに人を配置して、いつでもサービスが出来るようにする必要があります。なので、現地に拠点をつくり、現地の人を採用しているうちに海外の方が多くなってしまいました。実は、現地化は各国の要請だったりもするので、それに応えることが地域貢献にもなっています。

— 中東は、今大変ですね。

**西島** 情勢は必ずしも安定してないですね。今はアフリカにも出て行っています。先週は、インドネシアに行つて来ましたが海外出張は年中で、あちこちに行っています。

— そうですか、ところで売上構成を見ると、制御事業が86%くらいですね。

**西島** その位になります。

— 制御事業では、もう独壇場じゃないですか(笑)。

**西島** いやそんなことはないですよ(笑)。やはりグローバルで戦うと、競合相手は非常に大きい会社です。巨大企業ばかり

で、欧州で言えばシーメンスやABB、米国ではエマソンやハネウエルなど、皆さん巨大なグローバル企業で、それなりに大変です。

— テロなんかあると大変ですね。

**西島** グローバルに仕事をするには、あらゆる事態を想定して常に危機管理をしつかりしておく必要があります。ただ、日本人の駐在員の数は比較的小なくて、海外の社員約1万2千人のうち、200人弱ですので1%台。

— ああそうですね。

**西島** ほとんどが現地社員を中心に運営されています。

現地と言っても、例えばインド人などは国をまたいで結構動いたりします。いずれにしても、BCPや避難や退避の計画などを整備して、危機管理をしつかり実施していかないといけないですね。

— なるほどね。

**西島** 日本は平和ですけどね、やはり世界中が必ずしも平和とは言えませんので。

— なるほどね。社長というの

も大変ですね。

— 話は変わりますが、売上を見ていましたら、やはり2008年で大きく落ちていますが、リーマンショックの時ですね。

**西島** やはりあの時は、非常に大きな影響がありました。

— その後は、年々業績は上がってきていますが、当時は大変だったのでしょうか。

**西島** 2008年以前は今の制御以外にも大きな事業があり、半導体のテスト装置なども手がけていました。これは景気の影響だけではなく、半導体自体がテスト装置を必要としなくなってきたおり、市場自体が段々小さくなったので、この事業からは既に撤退しました。

自分達で、時代の変化を先読みしながら事業内容を変えていかなければならず、今は制御事業に軸足を置いています。

— それから年々、売上が伸びていますね。

**西島** はい、主には海外市場でのビジネスが増えているためですが、市場環境も競合企業も、そしてお客様も大きく変わって

いますので、さらに成長していくためには、新たな挑戦がいくつも必要だと思っています。

―やはり制御システムというのは、専門の分野ですので、なかなか難しいところがあるのでしようね。

**西島** 大規模なプラントをコントロールして運転や監視をするシステムですので、お客様のビジネス、例えば石油精製をされているお客様にとっては、それなりに大きな影響力があります。例えば、プラントがトラブルなど何らかの原因で一日止まれば、お客様のビジネスに直ぐに億単位の大きな損害が出ます。

―一日止まっただけで、ですか？

**西島** ええ、なります。それから事故を起こすと大変なことになりますし、お客様が社員の方々を運転員として教育してオペレーションされるのですが、経営に大きな影響があるので、たいへん気を使われています。我々は、グローバルで見れば大企業ではありませんが、お客様

のビジネスへの影響度が大きいので、オイルメジャー各社や世界各国の大手の製造業のお客様のトップ層とコネクションがあったりします。

―神経使いますね、24時間365日、動かさなければいけないというのは。

**西島** ええ、そうですね。大変です。原油価格が下がりましたので、なおさら大変で(笑)、多少は影響します。石油・ガスの採掘分野は投資を絞ったりしています。

一方で、石油精製や化学製品など、我々がダウンストリームと呼ぶ下流側の仕事や日本のように資源がない国では輸入価格が下がるのでプラスに働く面もあります。

―ああ、なるほど。

**西島** たとえばインドやインドネシアなど活況になりそうです。活況な地域への展開やICT、情報通信技術の進展が新たな事業機会を創り出していますので、まだまだ仕事は、たくさんあります。

―6割が外国人だと通常は英

語で喋るのですか(笑)？

**西島** 日本にいる時は、日本語が多いですが、ただ段々英語で話す機会が増えています。この本社にも海外から年中人が来ていますし、社員の中にも海外から来た日本語を話せないメンバーもいますので、そうした方々がいれば会議も英語になります。経営会議という役員で構成される意思決定会議は、日本語を話せない海外拠点長が入っていますので英語です。

―ああ、私も外資系にいましたので英語で仕事をした経験があります。

**西島** そうですか。でも英語は曖昧な表現ができないので、仕事には良い面もありますね。

―曖昧な表現はできないですね。喋っている時も。

**西島** 仕事上の思考には、英語の方がロジカルで良いかもしれません。

私は、まだどちらかと言うとベタベタな日本語的な(笑)頭で固まっているので、どうしてもファジーと言うか明確さに欠けるかもしれませんけど…。

―最後の言葉を聞かないと、分らないですよ(笑)。ところで、グローバル展開を進めたのは、いつごろからですか？

**西島** 海外に出たのは早く、1957年にアメリカに販売オフイス作ったのが始まりで、70年代に北米とシンガポールに工場を建て、中国も早く80年代には出ていました。ただ、売上が一気に伸びたのは、ここ十年か十五年位で、今も急速にグローバル化しているので、日本で働く社員の方々は、すごく変化を感じていると思います。

―ああそうですね。他の会社

も、やはり、ここ十年位で色々海外に出ていますね。

**西島** そうですね、大きく変わっていると思います。特に2008年の金融危機から日本企業のグローバル化は一気に加速したと思います。私たちのメインのお客様の製造業はなおさらですね。

―ああ、なるほどね。

**西島** 昔は日本でも、石油コンビナート、鉄鋼、紙パルプなど国内でそれなりの投資がありま



した。新たにプラントを稼働したり、改造したりしましたが、今は国も成熟してきて、なくなりはありませんが、どんどん新しくなるという時代ではなくなりました。

— ああ、なるほどね。

**西島** 私は、もとは技術屋で、技術や製品開発をしていました。入社後二十数年はセンサや制御機器の開発をずっとしていて、当時まだ国内でも新設プラントがあり、現場に製品を持ち込んで試験をしてもらったり、トラブル対応したり、故障や上手く測れないなど難しい問題があると直ぐに呼ばれました。よく現場に行きましたが、今の日本で働く技術屋さん達は、そうした機会が減っていると思います。

— ああそうですか。やはり、だんだん海外が中心になっていくのですね。

**西島** そうですね、距離はありますが、本拠地が日本の社員も、自分で出かけて行ったり、海外のメンバーと直接会話したりすることが必要になっていきます。

— なるほど。ところで、余暇は何をなさっていますか？

家で寝ているだけとか？（笑）

**西島** いえいえ、そんなことはありませんが（笑）。

— そんなことないですね（笑）、忙しいのだと思いますけど。

**西島** 休日が出張の移動日になつたりすることも多いのですが、休みには、普段運動不足なので出来るだけ歩くようにしています。近隣を家内とウォーキングするので、それでも限界はありますね。蕎麦が好きなので、ここぞというお蕎麦屋さんを見つければ、そこを目指して食べに行ったりしています。

— 美味しいお蕎麦屋さんがあるのでしょね。私もお蕎麦は大好きです。

**西島** そうですか。目的がある人間歩けるじゃないですか。

— 運動不足というところ、サッカーはもう全然なさらないのですね。

**西島** そうですね、今は全くしません。運動とは言えないかもしれませんが、仕事のお付き合い

いでゴルフには行きます。平均すれば月に一回程度でしょうか。たくさん歩けるので、いい運動にはなります。

— 社長は激務なので大変でしょうね。

**西島** いえいえ、そんな事はないですよ。

— 体に気をつけないと。あはは（笑）。

**西島** 懐かしいですね、鎌高はやはり。

— 私も鎌高の仲間と親交を深めています、高校時代の友人だと気軽ですね。

**西島** ええ、鎌高の校風もありますね。

比較的、勉強、勉強ではなく、合唱大会があつたり、文化祭でみんな騒いだり、比較的自由な校風でしたね。

— そう、それは強く感じますね。

**西島** 鎌高は景色もいいですね。江ノ電で通っていたというのはなかなかです。社内にも何人か鎌高の卒業生がいるはずですよ。

— そうですか。今回うしおに載ると、それを見て来る人がい

るのではないですか（笑）。最後に、いつも皆さんにお聞きしているのですが、夢と言うと大きく異なりますが、やりたい事はありますか？

— 会社の事でも、個人の事でも構いません。

**西島** そうですね、やはり会社について言えば、まだ競合の海外の巨大企業に比べると非力な面はありますが、ここまでグローバル展開してきましたので、制御事業でグローバルナンバーワンカンパニーになると宣言していて、それを全社員の力で実現したいですね。

— ああそうですか。

**西島** そのような大志は、企業にとつても大切だと思います。今は半分以上が日本人以外の社員ですけど、不思議と日本発の企業文化、価値観やDNAが国を跨いでしっかりと伝わって共有されていて、そんな世界のグループ会社の社員と、この夢を実現したいですね。

— そうですね。

**西島** こういう仕事なので、時間が来たので何があるうが帰

りますと言うようでは、24時間365日の運転を求めらるお客様  
の困り事には、十分に対応出来  
ません。会社としての仕組み作  
りも大切ですが、社員一人ひと  
りが、お客様の立場に立つて献  
身的に活動しないと信用しても  
られません。おもてなしの心を  
持つ日本発の企業には、比較的、  
向いている仕事だと思えます。

— そう思いますね。

**西島** そんな気質や価値観が海  
外のメンバーにもちゃんと移植  
されていって、ちよつと難  
しい言葉ですが、*“Vigilance*  
*(ビジランス)”*という  
コンセプトをつくってキャン  
ペーンもやりました。この言葉  
には、*“寝ないで番をする”*と  
いう意味があり、約束を守ると  
か、逃げずに最後までやり遂げ  
るといふ、若干日本的ですけど  
*(笑)*、そういう企業文化を表し  
ています。

— なるほどね、これは生まれ  
持ったDNAですね。

**西島** そうですね。それはなか  
なか真似できないですね。欧米  
流の全て契約に従って仕事をす

るといふのではなく、やるべき  
事はまずやるという考え方で  
しようか。そうだから、なかな  
か利益が出ないというのもある  
んですけど、逆に*(笑)*。

— あはは*(笑)*。ところで、個  
人的に、やりたい事は何かない  
ですか？

**西島** 個人的に、ですか。海外  
出張によく行きますが、まず空  
港に着き、そこからお客様や拠  
点オフィス、工場に直行、そし  
て仕事だけしてとんぼ返り。国  
内出張も同じです。だから少し  
のんびりとプライベートで旅行  
をしたいですね*(笑)*。

— ああ、奥さんを連れて？

**西島** ええ。昔は写真もやって  
いたので、旅行は好きだったの  
ですが、それがしばらく出来な  
くなっていて、ゆつくりと訪れ  
た土地ののを見たり、食べた  
り、聞いたり出来ないの、少  
しフリーで行きたいなと思うこ  
とは良くあります。

— なかなかいいですね、写真  
を撮りながら。

**西島** そうですね、写真も随分  
やっていないんですけど*(笑)*。

— どうも、色々お時間をとら  
せました。これからもお体に気  
を付けて、頑張ってください。  
**西島** どうもありがとうございます。  
ます。

「プロフィール」

西島 剛志

出身地 神奈川県

生年月日 1957年8月12日

最終学歴 1981年3月

東京都立大学

理学部物理学科

卒業

職歴

1981年 4月

株式会社 北辰電機製作所

(現 横河電機株式会社) 入社

1986年 10月

横河電機株式会社に社名変更

2001年 4月

プロダクト事業部

フィールド技2部長

2005年 4月

IA事業部

プロダクト事業センター

フィールド機器PMK部長

2008年 10月

執行役員 IA事業部

プロダクト事業センター長

2009年 4月

IA事業部 フィールド機器

事業センター長

2010年 4月

横河メータ &

インスツルメンツ株式会社

社長

2011年 6月

取締役兼 横河メータ &

インスツルメンツ株式会社

社長

2012年 4月

取締役常務執行役員 IAプ

ラットフォーム事業本部長

兼 横河メータ &

インスツルメンツ株式会社

非常勤取締役

2012年 12月

取締役常務執行役員 IAプ

ラットフォーム事業本部長

兼 横河メータ &

インスツルメンツ株式会社

非常勤取締役

兼 横河電機(中国)

投資有限公司 非常勤董事

2013年 4月

代表取締役社長 就任

## 在職中の鎌高の思い出

### 鎌高の怪人

久保 孝男 (元英語科)

「オペラ座の怪人」は、長年ミュージカルで上演され、また映画化もされて、世界的に有名であるが、「鎌高の怪人」はほとんど知られていない。しかし、私が在職していた頃には、鎌高には「出る」という噂が浮かんでは消え、消えては浮かび、といったことを繰り返していた。警備保障会社による、いわゆる「機械警備」が私の在職期間の途中で導入されたが、それ以前は、宿直代行員制度が設けられていた。主に卒業生が、アルバイトとして学校の宿直警備に当たり、教室や出入り口等の戸締まりや定期的な見回り業務を担っていた。その彼らが、時に遭遇してしまうのである。体験談によれば、そうしたときには、まず言い知れぬ不安感を

覚え、続いて悪寒に似たような感覚が背筋を貫くという。そうして、「見て」しまうのである。窓の外の暗闇の中を人の姿らしきものが飛ぶように去って行ったり：等々。

弓道部の夏の校内合宿の際にも、弓道場付近で、暗がりの中、木立の中に立つ人影らしきものを見たという話を部員から聞いたこともある。

しかし、そうしたことが職員室で話題になったときは、大方の教員は、はなからその種の「超常現象」を信用せず、暗闇の中を飛び去る人影についても、「校内に紛れ込んだ誰かが、慌てて走り去ったのではないか」といった類いの結論で終わってしまうのが常であった。

私も、非科学的な現象を、明確な確証もなく鵜呑みにすることを潔しとしない側に立ち、そうした結論で終わることに何の疑問も持たなかった。少なくとも、あの日を迎えるまでは：

その日は、特別教棟の完成に伴ってやってきた。この話を小説「二十四の瞳」風に書き出すとすれば「十年をひと昔というならば、これからの話の発端は今からふた昔半もまえのことになる」とでもなるのだろうか。ふた昔半は25年：正確には24年前の平成3年（91年）に特別教棟が完成し、同じ年の10月にそれを祝う落成記念式典が挙行された。

特別教棟は、鎌高の卒業生と関わりの深い建物で、まず設計者が昭和44年（69年）卒業の藤本幸充建築士。さらに、行政側の関係者として、当時、都市部建築工事課（現在は、教育局行政部まなびや計画推進課所属）の若き職員であった、昭和59年（84年）卒業の羽太美孝君がいた。羽太君のクラスの授業を私が担当したこともあり、記念式典は久しぶりの再会の場でもあった。そこで、私は忘れることのできない話を聞かされるこ

とになるのである。

「先生、実は、今回のこの工事で思いがけない経験をしました。私は、理科系出身ですよ。霊の存在など、それまでは全く信じていませんでした。」さらに話は続く。「通常では考えられないような工事ミスが数多く発生したんです。工事遅れ気味になりました。また、作業員が怪我や病気をしたり、作業従事者の間に、何か変だという不安感が広まり、特に夜は気味が悪いと言う人が多くいました。」

これ以上作業員の志気が下がらないようにするため、また、その後の工事を円滑に進めるためにも、請負業者サイドでお祓いはらいをする事になったという。お祓いは、平成2年の秋と年が明けてからの二回行われ、その後は不可思議な現象は収まり、工事は順調に進み、無事完成の日を迎えることとなった：ただ、お祓いの

際に、神主には「落ち武者」の姿が見えたというのが話の流れであった。

この話は、私にとつて全く予想もしていなかった内容であり、大きな驚きとともに、四半世紀が経った今でも、鮮烈な記憶として残っている。

特別教棟に関しては、教職員の中にも、その建設を検討する委員会が設けられ（私もその一員であったが）内部の設計に関する要望事項をまとめたり、導入する機材の選定を行うのが、その主な業務であった。したがって、私たちが関与するのは工事開始前のことであり、開始後は、当然ながら建築業者主導で工事が進められていく。その過程で、前述の一連の出来事が起こっていることなど、私たちは知る由もなかったのである。

しかし、ここで思うのだが、更地に新設校を建設する場合は別として、既設校の敷地内の工事をを行うに際し、お祓いという

儀式が必要となる学校が全国的にみてどれ位あるのだろうか。これも、鎌倉という土地柄か：と考えて、ふとなぜ武者の霊と鎌高が結びつくのかという疑問がわいてくる。

ここで、歴史は門外漢である私が、その武者と鎌高の関わりについて、自分なりに若干の考察を試みたい。

まず、時代的に考えて、その武者はいつ頃の人物なのであるうか。「落ち武者」というからには、鎌倉時代末期、鎌倉幕府が滅亡する頃と考えるのが妥当であろう。（データ不足で、正確な時代考証は、残念ながら不可能ではあるが：）

学校の沿革によると、鎌高が現在の地に移転したのは、昭和 27 年（52 年）のこと。ということ、その霊は約六百年間この地をさまよひ続け、昭和の時代、しかも第二次大戦後になってやっと安住の地を見つけたこととなる。もしかすると、工

事中の一連の不可思議な出来事は、その武者の精一杯の居住権の主張であったのかもしれない。

ところで、二度もお祓いによって慰霊（除霊という言葉は、ここでは使用を控えたい）

を受けるといふ希有な体験をしたかの武者は、今はどうしているのだろうか。その点は、前述の羽太君も気にかけていて、三年前に完成した新 C 棟校舎の工事の際にも、担当者へ何か想定外のトラブルはないかを問いかけたという。回答は「何もなし」とのことであった。

今は、心の平安を得、七百年近い時を経て成仏を果したのかもかもしれない。あるいは、風光明媚な七里ヶ浜の地を離れがたく、この地の守り神として、今もどこかに残っているのかもしれない。もし、後者であるとすれば、あの大変な東日本大地震を体験した今、今後もし起こる可能性が指摘されている、地震や津波を含めた自然災害から

鎌高や鎌高生をぜひ守っていたきたい。

そのような、勝手なお願いをしながら、この稿を終えることとしよう。

## 鎌倉高校の思い出

小山 直人（元数学科）

今年 4 月から横浜市立高校で勤務するようになり、改めて県立鎌倉高校で過ごした 3 月までの日々を、折りに触れて懐かしく思い出しています。私は数学科の教員として、全学年の授業を担当させていただきましたが、やはり今も多くの思い出が残っているのは、学年に所属していた 2 年生の数学 B の授業です。ベクトルや数列といった難解な内容を、鎌高生たちが一生懸命ひたむきに取り組んでいた様子が、今も懐かしく思い出されます。特に、「ハノイの塔」に取り組む生徒の皆さんのとて

も楽しそうな活動の姿は、授業を行う私にとっても忘れられない楽しい思い出です。円盤を動かしながら周りの生徒に教え合っている姿や、移動の回数 of 規則性を発見し、それを漸化式であらわせたときの自信にあふれた表情など、そのどれもが鎌倉生としてのとても意欲的な姿であったと思います。

また、学級では 2 年 2 組の副担任をさせていただきました。ホームルームや掃除、総合学習の発表会など、さまざまな場面を通して、40 名の皆さんのとても温かい人柄に触れることができたことを、今でも嬉しく思っています。

また部活動の顧問としても、とても多くの大切な思い出を私は鎌倉生からいただくことができました。カヌー部の有村君の常に向上するひたむきな姿は、今でも私の中で強く印象に残っています。忘れられません。また、陸上部の皆さんの仲間を思う気

持ちや互いに協力し合って目標に向かう姿がとても美しく、それが私自身の陸上部を応援する気持ちへとつながっていききました。鎌倉高校の陸上部は、どの学校にも誇れる素晴らしい陸上部だと思っています。

そして、さまざまな分掌などでお世話になった多くの先生方や P T A 広報の保護者の方々など、私が鎌倉高校で過ごした日々は、多くの温かい方々の支えによって成り立っていたのだと思います。これからは横浜市教員として、鎌倉高校で学んだことを生かし、新しく出会う横浜の先生方や生徒、保護者の方々とともに日々の教育活動を行っていききたいと思っています。これからの鎌倉高校の先生方や生徒の皆さん、保護者の方々の益々のご活躍とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

今まで本当にありがとうございました。

**職員人事異動**

○大変お世話になりました。

❖ 退任者

柏木 隆 良先生 (校長)  
山本 徹先生 (英語)

❖ 離任者

永田 宏先生 (教頭)  
平塚中等教育学校へ

吉川 隆 明先生 (社会)  
大師高校へ

的野 鈴 恵先生 (国語)  
総合教育センターへ

浅松 良 伸先生 (理科)  
舞岡高校へ

橋口 圭一郎先生 (理科)  
生田東高校へ

江原 雪 枝先生 (英語)  
横須賀高校へ

粟飯原 純先生 (英語)  
横浜栄高校へ

小柴 健 司先生 (保体)  
大和南高校へ

青木 敦先生 (美術)  
光陵高校へ

小山 直人先生 (数学)  
横浜サイエンスフロンティア高校へ

武藤 博 子先生 (家庭)  
磯子高校へ

藤原 いずみ 司書

○よろしくおねがいます。

❖ 転入者

真壁 広道先生 (校長)  
小田原城北工業高校より

岩崎 幸代先生 (教頭)  
柏陽高校より

松浦 直弘先生 (理科)  
茅ヶ崎北陵高校より

永森 憲二先生 (社会)  
二宮高校より

一杉 茂先生 (理科)  
平塚農業高校より

三浦 紗恵美先生 (英語)  
高浜高校より

飯山 毅先生 (保体)  
旭高校より

早田 有子先生 (家庭)  
横浜修徳館高校より

大崎 義貴先生 (情報)  
川崎高校より

田中 栄一郎先生 (国語)  
私立高校より

添田 正樹先生 (理科)  
茅ヶ崎高校より

新田 雅秀先生 (美術)  
高浜高校より

赤尾 恵一先生 (英語)  
横浜立野高校より

永淵 磨理子 司書  
横浜青陵総合高校より

❖ 新採用

堀川 胡桃先生 (英語)

## 私のお店紹介

### 良質の真珠を…

31回生 (S55年卒)

市川 洋

同じロータリークラブでお世話になって、増田隆之さんよりお話を頂き投稿の機会を得ることが出来ました。市内に8つのクラブがある中、私の所属する、フジさわ湘南ロータリークラブには増田さんをはじめ、多くの鎌校出身者がおりま



す。現在の会長の市島徹くんも、野球部で大活躍をしたと聞いており。地域における様々な奉仕活動のおりには、鎌校時代のはなしに花が咲きます。

さて、私の店は藤沢で最も古い商業ビルである、フジサワ名店ビル<sup>®</sup>の2階、JRの駅舎から直結のデッキを渡り有隣堂さんの隣で営業しております。もともと銀座の宝石店の支配人であった父親が大病し、療養を兼ね地元で開業させていただきましたことに始まりました。あまりピンと来ないかもしれませんが、日本の宝石店の成り立ちは大きく2つに分かれます。ひとつは時計屋さんをルーツに持つ宝石店、もうひとつは真珠屋さんからの流れをくむ宝石店です。私の店は後者にあたり、長崎の大村湾で真珠の養殖を営んでいた親類の縁で、真珠業界に精通していた父親と、国営の真珠輸出検査所に勤めていた叔父により創業し、45年間にわたり良質の真珠を湘南の皆様にご紹介させていただいています。



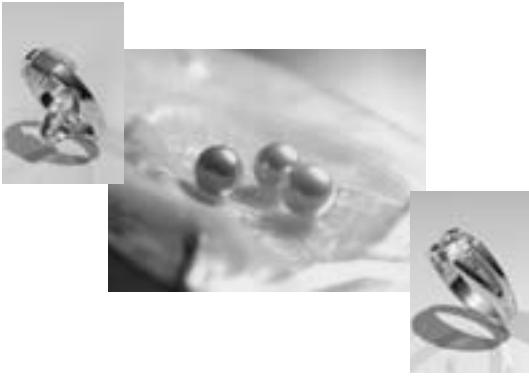
また物販以外で多くのお客様にご利用いただいているものが、宝飾品の「リフォーム・リペア」<sup>®</sup>です。みなさんご存知のように湘南の地は、3代4代と続く家が多く、先代、先々代より受け継がれた家族のたからもの(想い出)が眠っております。大切にメンテナンスして次の世代に想いを託したり、時代に合わせたフォルムにリメイクし想いを重ねたり…家族の物語を紡ぐお手伝いをさせていただいています。



デザインをより正確にお伝えするために、15年前から3次元CADを使用して、お客様・デザイナー・クラフトマンのイメージを同一化。また細かい重量計算も自動化し、正しい見積もりをご提示しております。また最近話題の3Dプリンターでの作製も、以前より手がけており、よりリーズナブルにご利用いただけるよう用意しております。

価値ある逸品も、かけがえない一品も。リフォーム・リペア<sup>®</sup>お任せください。

鎌倉高校では、多くの友人と先生方に大変お世話になり、また自分の身勝手さで本当にご迷惑をかけてしまったことが思い出されます。当時わたしは眼前の海の虜になっておりました。波のある日は授業を抜け出し、朝から晩までサーフィンにのめりこみ、友人や先生方に心配をかけてしまっておりました。当然ながらその報いで翌年も余分に登校することになってしまいました。その分多くの思い出を得ることもできました。



現在も31回生の友人とは、フェイスブック等で交流をしています。本当に便利な世の中になり、遠方に住む方とも今そこにいるように会話ができるようになりました。皆さん今年54歳を迎えるとは思えないほど元気に活躍しているようです。

最後になりますが、運営されている事務局の皆様、ありがとうございます。どうぞこれからも、ひととき潮風を運んでくれる「うしお」をよろしくお願いいたします。



株式会社 ブルーダイヤ 市川宝石店

〒二五二〇〇五五

神奈川県藤沢市南藤沢二一〇一

TEL: 〇四六六一二六一三八七〇

FAX: 〇四六六一二六一八三九〇

## うしお会では皆様の同窓会を応援します

参加者100名を超えると思われる学年同窓会、または部活動OB・OG会の開催につきましては、応援金として20,000円、50名から100名の場合は10,000円を寄付致します。

幹事の方は、予め開催する旨、日時会場などをうしお会ホームページに掲載申し込みしてください。

尚、開催報告として数枚の写真とコメントを後日お送りください。ホームページまたは会報誌「うしお」に掲載させていただくことをご了承ください。

お申込み .....  
うしお会ホームページからメールフォームでお申し込みください。

受取方法 .....  
開催日前日までに幹事さんが来校していただきます。

※また、名簿、会場（うしお会）が経営する店舗）なども

ご案内することが可能ですので、ご相談ください。

## うしお会地方開催

昨年の会報「うしお」の発行部数は、約17,000部でした。と言うことは、うしおの会員が全国に約17,000名いると言うことです。

当然の事ですが、年々会員は増えていきます。この中には、地方で生活をされている会員の方が多くおられます。同じ鎌高卒業生として、その地域でうしお会を育てて頂くこともできるのではないのでしょうか。うしお会事務局は、各地域での開催を応援いたします。同窓会開催計画を事務局に連絡頂き、打合せ後、事務局にて案内を送ります。個人情報に十分な注意をした対応をさせていただきます。まずはご相談を。

ベルフィーユ・アンサンブル



わくわく

# キッズコンサート Vol.5

2015 年 5 月 31 日 (日) 午後 13:00 開演◆栄区民文化センター リリスホール

見て、聴いて、体験できるコンサート!

0 歳から大人まで楽しめる オリジナルコンサート!



ヴァイオリン:  
梅津美葉  
44 回生



ヴィオラ:  
安藤美佳  
41 回生



ハーブ:  
安井弘子  
43 回生



ピアノ:  
宇治田かおる  
42 回生



フルート:  
加納敬三  
33 回生



ソプラノ:  
淵岡優子  
40 回生

編曲: 久松義恭 42 回生 写真: 糸川真木彦 39 回生 ロゴ: 佐々木明日香 40 回生



## ベルフィーユ・アンサンブル



2015.1 - 大人のためのコンサート Vol.5  
北欧の風、名曲の愉しみ

2014.1 - 大人のためのコンサート Vol.4  
春を聴く、音を旅する - 名曲“春”と音で巡る世界の旅

2013.5 - わくわくキッズコンサート Vol.4  
朗読「ペチューニアのたからもの」と音楽

2013.1 - 大人のためのコンサート Vol.3  
「星の王子様」とフランス音楽

2012.5 - わくわくキッズコンサート Vol.3  
朗読「すみれおばあちゃんのひみつ」と音楽

2012.1 - 大人のためのコンサート Vol.2  
写真家 桑川真木彦氏の写真「人」と音楽

2011.6 - わくわくキッズコンサート Vol.2  
朗読「かわいいことりさん」と音楽

2010.12 - 大人のためのコンサート Vol.1  
クリスマス休戦「世界で一番の贈り物」と音楽

2010.6 - わくわくキッズコンサート Vol.1  
朗読「ふしぎなバイオリン」と音楽

《その他の活動》  
小学校での音楽鑑賞会  
チャリティーコンサート  
『祈り』シリーズ



【ゲスト参加】



クラリネット  
西林亜希子  
48 回生



朗読  
濱田典子 40 回生  
元フジテレビアナウンサー

鎌高生、OBOG の皆様  
多くのみなさまのご来場を  
お待ちしております！

= ブログ =

<http://ameblo.jp/belle-feu>

= お問い合わせ =

Tel. 090-4927-6099

Fax 0466-36-1392

e-mail [bee\\_fee\\_eee@aol.jp](mailto:bee_fee_eee@aol.jp)

### 《キッズコンサート》

- ◎ 3 才の息子は 1 部から 3 部、全て興味深く集中して聞いていました。
- ◎ 舞台の上も体験できて、親子ともども興奮！楽しめました。
- ◎ 子供と一緒に演奏を楽しめる機会がなかなかないのでとても有難いです。生の音は感動しました。

### 《大人のためのコンサート》

- ◎ 音楽と映像を聴きながら各地を旅しているようで楽しめました。
- ◎ このようなコンサートを、各地でして頂きたいと思いました。
- ◎ 色々な曲を聴くことができ、贅沢な気持ちになります。
- ◎ 鎌高卒業生として共有できるものがあり、有難く思います。

## 同窓会・クラス会を開催しています

### 鎌高さんさん壺の会

(昭和三十三年卒業・  
第九期一組クラス会) 開催

事務担当幹事

片山 秀人

当会は四年前の第九期同期会・鎌高さんさん会の「古希大会」を挟み、平成十八年以来実に八年振りに七月九日藤沢駅近くの「きじま赤門」にて開催されました。

既に鬼籍に入った仲間は十一名にのぼり、連絡可能な健存者四十名のうち十七名の参加を得ました。

ながいブランクの後でしたが、大勢の仲間が集い、すぐに打ち解けて尽きぬ話題に時間の経つのも忘れて大いに盛り上がり、準備にあたった幹事一同も喜び一入でした。

只、これまで毎回お元気にご参加頂いた恩師・金指先生が直前に体調を崩されてご出席叶わず、いつもの懐かしい在学中の

愉快なお話を聞かせて頂くことが出来ませんでした。その後すぐにご回復され、次回は是非参加したいとのことと安堵しております。

二次会はお決まりのカラオケとなり、クラス仲間で最初に旅立った赤塚親弘君(日活俳優・赤木圭一郎)のヒット曲「霧笛が俺を呼んでいる」を先ず唄い存命の頃の姿を皆で偲びました。その後自慢の歌声を夫々披露、多感な昔と少しも変わらぬ無邪気な姿、またこれ迄の人生を偲ばせる姿に、一同感動し拍手と爆笑に包まれました。

愉快に語らった数時間はたちまち過ぎ、互いに健康を願い再会を約して散会となりましたが、鎌高の同期・同クラスの仲間との絆は、時を超えた格別のものであることを、しみじみと噛みしめる一時でした。

次回は二年後に「喜寿大会」と銘打ち開催することで出席者

の意向が集約され、平成二十八年夏頃の開催となります。ところが、半年後の年明け早々から、出席した仲間より「次の会来年は待ち遠しいね」とか「今年またやろうよ」などの声がいきりに聞こえてくるこの頃です。



### 鎌高サッカー部

#### 創部60周年

17回生(S41年卒)

深澤 隆史

1954年(昭和29年)に創部された鎌高サッカー部、今年、創部60周年を迎え、11月24日、藤沢市内のホテルで盛大に、記念式典を行いました。

当日は、現役52名、OB120名参加、更に、80歳を過ぎた初代監督の鈴木和孝先生をお迎えし、現役、OB共に、親交を深め、思い出に残る式典となりました。

現役の来季に向けての力強い挨拶、OB諸氏の懐かしい回顧談、都度、大きなエールが送られました。

特に今回は、レジェンドイレブンと言って、これまでの60年の歴史で思い出、記憶に残る選手11名を選出し、表彰を行いました。

元Jリーガー、現Jリーグコーチ等、全国大会に出場した選手を中心に選出し、現監督の



小柴監督、現コーチの石原コーチも堂々と選ばれました。選ばれた選手を見ると、夢のチームとして、もし、一緒にプレーすると、天皇杯優勝も夢でないイレブンです。

創部当時の部員確保の苦労話し、昭和40年の関東大会、初出場の思い出、又、輝かしい神奈



川県代表としての全国大会の思い出等、諸先輩の話を現役は、熱心に耳を傾け、あらためて、鎌倉高校サツカー部の誇りを胸に刻む事が出来たのではと思います。

最後に、名門鎌倉高校サツカー部の復活を祈って、OBの協力を誓い合いました。



3月28日、春の日差しが心地よい日に、うしお会 第6回神奈川県立鎌倉高等学校剣道部選手権大会が開催された。剣道部OBの金澤明氏が中心となって運営されている大会で、もう6回を数える。本年卒業した部員

## うしお会 第6回 神奈川県立 鎌倉高等学校 剣道部 選手権大会開催される

21回生 (S45年卒)  
鈴木 勝貴



も含め20名が男女別に腕を競った。優勝者は男子、廣江祐馬君(2年生・当時)、女子、渡瀬奈緒君(1年生・当時)であった。また、例年金澤氏からうしお会に寄付を頂戴しているが、今年も多額の寄付を頂戴した。感謝申し上げます。

### 第6回 鎌倉高校

#### 学年会開催報告

34回生 (S58年卒)

幹事長 見学 明彦

去る平成26年9月14日(日) グランドホテル湘南にて第6回 学年会が開催されました。

生誕半世紀記念ということで 当日は総勢209名もの参加を いただきました。

元劇団四季で同級生の五東由衣さんにもお歌を披露していただき、大いに盛り上がりました。やはりいくつになっても鎌倉高生は最高です。

たくさんさんの笑顔で元気をいただきました。幹事の皆様も本当にお疲れ様でした。

心より感謝申し上げます。



### 同窓会報告

35回生 (S59年卒)

本島 いずみ(藤本)

去年の8月2日、横浜ロイヤルパークホテルにて、昭和59年卒の同期会を開催致しました。

私の知人の鎌

高OBが上記会場の元総支配人であったことから、前回の開催から2年後の開催となりました。

教師4名を含め、約160名の参加者がありました。

高校3年次の合唱祭や現在の鎌高の様子をスライドで流したり、幹事有志7名が当日1時間で仕上げた余興、『キツスは目にして』も大盛況でした。

盛況でした。



思い出話に花を咲かせ昔を懐かしむ一方で、高校時代話したこともなかった者同士が、大人になった現在、新たな友情を築いていくきっかけの場にもなり、同期会って、なかなか乙なものだなあと実感した次第です。



# 還暦野球で「自分」再発見

14回生（S38年卒）

山崎 聖一

私は昭和38年、今から52年前の第14回卒業生で年齢は古希の70歳となりました。

（株）東芝本社を60歳で定年退職し、引き続き関連会社に3年余り、それも満了した7年前、仕事一筋・多忙だった現役時代から一転リタイヤ後はあり余る時間を持て余す日々。処遇は変わりポジションも無い。とにかく情報が入ってこない毎日、朝起きて新聞に目を通し全てのページを読み切り、次はテレビ。それを見ていても気づいた。居眠り。趣味のゴルフはシングルハンデを取得していたが、毎日ゴルフという訳にも行かない。世間から孤立してしまったように感じていた。

「これから毎日暇だなー、次の人生設計・デザインを考えなければ」と思っていたそんな時「リタイヤールしたのだから、それなら毎日暇だろう、手を貸してくれないかな」と私の昔を知っている友人から声が懸った。鎌校での3年間の野球部経験

を活かし東芝でも野球部に所属し、国体・五大都市対抗・全日本大会などに投手兼監督で出場。だが年々仕事の忙しさが増すにつれて野球は遠い存在になっていったが、もう一度好きな野球が出来る上、暇な時間を有効活用し健康のためにもいいと思い、誘われた還暦野球チームに入部した。

60歳以上が参加できる条件の還暦野球は、定年退職した後再び野球を楽しむ熟年愛好者が多くなり続々新しいチームが誕生、現在は全国で1,000チーム以上ある。

その中でも強豪が多い神奈川県には約40チームが活動しており、私の所属するチームは「川崎ドリーム」。神奈川県を制するものは全国をも制す。全国最激戦地区、神奈川県高校野球で語られてきた格言は、還暦野球にも当てはまるようだ。

私のチームは神奈川県代表として高齢者の「甲子園」と言われる全日本還暦軟式野球大会に13年連続して出場中で2012年の秋田県横手市開催の第28回大会には決勝戦まで6戦、それ

も4日間の厳しい日程に勝ち抜き全国制覇、二個目の金メダルを獲得。小学生の二人の孫娘達に喜ばれるお土産になりました。私も投手で決勝戦含め3試合に投げて優勝に貢献。試合は秋田のラジオ局にも中継されたり、結果は神奈川県新聞やスポーツ報知・全国紙の毎日新聞にも掲載されました。後日川崎市長へも優勝報告会が行われ「生涯スポーツのモデルだ」と激励されました。

30人いる部員は帽子を取って初めて分かる薄くなった頭髮や白髪・銀縁メガネを除けば、60歳以上という年齢を感じさせず、最高齢は75歳。草野球の国体出場選手、私と同じような社会人野球経験者、仕事を続けながら野球を楽しんでいる人など、立場も経験を様々だ。ユニホームを着ると途端に昔と同じように動き回る仲間との野球は「私の生きがい」。

投手のポジションで自己表現ができ、夫でもない父親でない「自分」

の役割が見つかり存在を示せる場所が出来たのが嬉しい。遠征試合で汗を流した後は、もちろん居酒屋で乾杯。勝利の後の美酒は最高。これも還暦野球ならではの楽しみだ。

今年も秋に広島市で行われる予定の全国大会に出場が決まっているので、三つ目の金メダルお土産付き全国制覇が出来たら最高。それと古希になったので古希のチームにも所属し「二兎を追うものは一兎も得ず」とあるが、一生懸命練習し敢えて二兎を追う毎日。

これが出来るのも何よりも家族の理解・支えがあったの事、特に妻と丈夫な体に生んでくれたあの世のお袋には大変感謝している。



# いつまでも、サッカー少年!

17回生 (S41年卒)

浜野 正明

いまだにサッカーと離れられずに、ボールを蹴っています。小学校時代は、野球少年でした。あの頃は、ほとんどが相撲か野球でしたから……

中学校からサッカーを始めた、普通の少年でした。入学式の帰りに、たまたま転がってきたボールを蹴って、褒められたのがサッカーとの出会いです。後で思えば、入部勧誘作戦だったのです!

あれから55年! いまだにボールを蹴り続けています。

鎌高に入学しても即入部。その頃は、部員が少なく即レギュラーに! でも出ると負け! ところが、2年生終わりの新人戦で、それまで全く勝てなかった相工大付属(現湘南工科大付属)に勝利!(抽選勝ち) 関東大会(鎌高初の県外大会〓水戸)出場権を獲得。

3年になると進学退部するのが恒例も、強制的に引き戻し同期全員揃って水戸へ。おかげで? 同期のメンバーは、今でも年一回以上のペースでgoal・酒盛りを続けている。

大会では初戦負け! 当日はどしゃ降りであるで田んぼ? グランドで、明らかに体力負け! 湘南の砂浜は走り慣れ鍛えられていたのですが、田んぼには叶いませんでした。

私は、この頃から更にサッカー漬けになり、中央大学サッカー部に入り込んでしまった。中大サッカー部は、関東1部のトップチームで、当時は特にリーグ優勝・天皇杯優勝を成し遂げ、日本代表選手をも有する日本のトップチームでした。当然、同期も高校時代は強豪校・地域選抜経験者の優秀(サッカーが)なメンバーがほとんどでした。4年間は下積みで暮らしていましたが、この経験が卒業後

のサッカー人生を益々楽しくしたのは事実です。

就職してもサッカーは続き、当時のトップリーグである「日本リーグ」を目指したのですから。34歳で現役引退。今度は地域の少年団のコーチに没頭。57歳で引退後も副団長として関わっている。その間も40雀(40歳以上)、50雀(50歳以上)チームに参画、現在は大学OBの60歳以上のチームで年2回程ゲームに加わっています。

10年前に教え子を中心とした藤沢市で社会人サッカーチームを立ち上げ、代表・監督・コーチ・庶務・を務めています。5年ほど前から

鎌高サッカー部OBの入部が増え、現在は8名程が登録されており、その為か? 市内では社会人1部リーグの常勝チームになっ

ている。

更に個人では、毎年国立西が丘サッカー場で開催される、中大と筑波大の定期戦のOB戦に出場。はっと気が付くと、中大側の出場メンバーの中で最年長になっていました。

いつの間にか体型も「タムキ型」になりましたが、一瞬の要所で往年? のプレイを見せています。60歳〓赤パンツ(履きませんでした)、70歳〓銀パンツ、80歳〓金パンツを目指してグラウンドへ!

いつまでもサッカー少年のままで、ボールを蹴り続けていたいと思います。



Photo: Reiko Iijima



# 物理科学部「県立鎌倉高校無線部」の思い出

17回生 (S41年卒)

富田 達

皆さん、ご近所の庭先で高さが20〜30mもあるタワーに大きなアンテナが載っているのを見たことがありますか。

実はこれらの多くはアマチュア無線を楽しんでいる方のアンテナなのです。

私のアマチュア無線歴は、鎌倉高校に入学した昭和38年の4月に行われた国家試験を受験した時からでも50年以上たちます。

当たり前ですが当時はPCも携帯電話もなく海外旅行も夢のまた夢の時代でした。

その頃近所の大学生がアマチュア無線でアメリカやヨーロッパの人たちと通信するのを知っていたのが、私がこの趣味に興味を持ったきっかけでした。

アマチュア無線を行うためには国家試験に合格後、郵政省(現総務省)に無線局の申請す

ることにより免許を得ることが必要です。

無線局の免許は本来個人に与えられるものでしたが会社や学校の団体で、免許取得者が一定以上いれば、その学校や会社の名称を使用して個人ではなくクラブ局を持つことが可能となり、大会社の工場、放送局などの技術系の人たちが多くいる会社や全国の大学、高校でそのクラブ局の開設が始まりました。

全国的にクラブ局を開設する高校が目立ち始め、近隣の高校では横須賀高校、藤沢高校、湘南高校、鎌倉学園高校、日大藤沢高校などは既にクラブ局を開設していました。

そのような中、私が属していた物理科学部で部長の田口光一君と相談をして物理科学部のメンバーでクラブ局を作ろうと話がまとまり鎌倉校でのクラブ局開設準備に取り掛かったのです。

クラブ局を開設するために、当時の郵政省に提出する開設申請書類を整備する一方、無線機器の準備が必要で一年先輩の河野さんと一年後輩の池内君や橋本君などと準備をしたことを覚えていきます。

無線の機器ですが当時は自分たちで真空管、抵抗器、コンデンサー、コイル、バリコン等の部品をかき集めアルミ板を加工したもの穴をあけビスナットで主要な部品を取り付け、あとは抵抗器やコンデンサーを半田ごてで回路図に従って地道に取り付けて作成するものでした。

その様な作業の結果、無線の機器の準備が完成しその後「県立鎌倉高校無線クラブ」の名称で、コールサインJAIYL Yが割り当てられた免許状が郵政省から送付されてきたのでした。

コールサインと言うのは無線局の識別符号でJAIYL Yの

最初の2文字「JA」は日本を示すものでこれは国連の機関で世界中の国に各々割り当てられているもので、次の数字「1」は関東地方を示しており「YL Y」は「YAA」から始まる連番です。

免許が整い無線機も何とか準備でき実際に電波を出して他の方と通信をするためには大きなアンテナが必要でした。

当時どのように屋根に上ったのか覚えていないのですが、とにかく当時正面玄関があった校舎の屋根の上に登り、大きなアンテナを何人かで苦労して準備したのを覚えていきます。

私が三年生になった年に新入生として個人での免許を取得していた、現在も親しくさせて頂いている山田君や、住吉君が入学してきてメンバーが増えた覚えがあります。

卒業後、私は鎌倉校に行くこともなくなりその後クラブ局がどうなったのか分からなかったのですが、アマチュア無線が縁で結婚式の立会人までして頂き現

在も親しくさせて頂いている昭和31年卒業の有坂芳雄さんと一緒に鎌校の文化祭を見に行き、昭和56年卒業の当時2年生だった清水伸一君と文化祭の会場でお会いしたことがあります。

清水君の話では彼が在籍していた時代には私たちが組み立てた無線機は既に使用されていなくメーカー製のトランシーバーを使用していたとのことでした。

清水君卒業後何年かは活動を確認できたのですが、その後はアマチュア無線に興味を持つ人がいなくなったようで、現在鎌校には物理学部の名称は既になくアマチュア無線関係の活動はなくなっているようです。

これは全般に言えることです。携帯電話を使用して自由にどこでも話が出来た現在では、アマチュア無線に興味を持つ若者は大変少なくなり、現在これは完全におじさんの趣味となっています。

物理学部所属で昭和48年卒業の諏訪部君とは、最近ですが彼がハワイ島から無線を運用し

ているときにも交信ができ、このように彼とは無線での交信は何回か行ったことがあります。が、直接お会いすることは一回もありませんでした。

しかし昨年、全国からそして外国からも多くの同好者が参加するお台場のビッグサイトで行われた無線関係のフェアで初めてお会いすることが出来たのですが、高校の後輩として、また同じ趣味の仲間として、初めてお会いしたのではなく遠い昔から親しい顔なじみであったような感覚だったことを良く覚えています。

運動部は部としての同窓会的な動きがありますが文化部はそのような活動は少ないようで、世代が少々隔たると交流する機会も中々むずかしいのですが、私は一回り年上の先輩や一回り以上離れた後輩の方々とこのアマチュア無線の縁でいまだに親しく付き合いができ、長きにわたって楽しい時間を過ごせ大変うれしく思っています。

写真はわれわれの卒業アルバム

の物理学部のメンバーのもので中央が当時、物理学部顧問の故尾高克俊先生で後列一番左の方が部長の田口光一君、尾高先生の右隣が筆者です。



最近、総務省のホームページで確認すると一回途切れていた鎌倉高校無線クラブの免許が復活しています。

恐らく卒業生のどなたかが自宅かどこかの場所で「県立鎌倉高校アマチュア無線クラブ」の名称で免許の再申請を行い、

免許を復活されたのだと思います。

再申請された方は県立鎌倉高校無線クラブに大変愛着をお持ちの方だと思えますので何か状況でもお知らせ頂ければと思います。またクラブ局の設立等で文中で紹介した以外の方々の応援も頂きましたことを感謝しております。

最後にどのような著名な方々がこのアマチュア無線の免許を持つているのかを少し調べてみましたので紹介をさせていただきます。

古くは戦前に免許を取られた故井深大ソニー創業者、故大賀典雄元ソニー会長、政治家では国会アマチュア無線クラブの代表の故小淵恵三元総理大臣、小淵優子衆議院議員、大村秀章愛知県知事、芸能界ではタモリ(森田一義)、えなりかずき、歌手の今井美樹、原田真二、子門真人、サンブラザ中野、俳優の大村崑夫妻、小泉孝太郎、藤岡弘、佐藤隆太、タレントの優木まおみ、漫画家のさくらももこ、小説家の辻仁成、宇宙飛



行士では毛利衛さん、若田光一さんはじめほとんどの歴代宇宙飛行士の方々、冒険家の故植村直己さん、堀江謙一さんなどの方々がいらつしやいます。

世界では私も直接無線で昔声を聞いたことがある故フセ

## 江ノ電 鎌倉高校前駅

S42年卒 (旧姓・戸塚)

甘粕 保子

藤沢、鎌倉間を家々の軒先をかすめながら、植木や紫陽花の花たちの間を縫うように走る緑の(たいていは…)電車がとても懐かしい。全国にもかなり有名になっている、湘南の観光地を走るわれらが江ノ電。なかなか浮気者で、いろいろなところを走った電車を払い下げてきて走ると昔聞いた。緑が主だが、いろいろな、最近では、特別にカラフルな車輛もあると聞いているが。

電車にしては随分ゆっくり藤沢から34分で鎌倉に到着する。

インヨルタン国王、故ファン・カ  
ルロス一世スペイン国王、故ユー  
リー・ガガーリン(宇宙飛行  
士)、故フランチェスコ・コッシガ  
イタリア大統領、故ラジュー・  
ガンディー インド首相などの  
方々がいらつしやいました。

ゆっくりなのは、たくさんのお  
きな駅に停まり、美しい海と富  
士山と伊豆大島の鳥影を臨み、  
日本一の、いや、世界一の景色  
を堪能するためだと思っ  
ているのは、私だけではないだろう。

藤沢からのどかな住宅街を抜  
けて、江の島駅を出て、次の腰  
越までの路面電車を味わうと、  
その先から、季節ごと、一日の  
時間ごとに色も、趣きも変わる  
美しい海辺に出る。

電車はずっとそこから海辺を  
走る。七里ヶ浜、極楽寺、由  
比ヶ浜、などと唱歌に歌われた  
たくさんのお有名駅たちが待っ  
ている。

しかし、駅のホームから、こ  
の美しい海を直接見られるの  
は、多くの駅の中で、唯一、われ  
らが鎌倉高校前駅だけなのだ。

私は、鎌倉高校に入学して、  
駅から降り立った道が今のよう  
にきれいでなかったあの頃か  
ら、駅のベンチに腰掛けて、ぼ  
んやりと海を眺めているのが好  
きだった。今でも時折、何も目  
的はなく、ただ江ノ電に揺られ  
て鎌倉高校前で下車する。

海岸通りの激しい車の往来を  
抜けて、下の浜にも降りてみ  
る。卒業してすぐの学生時代な  
どは、哀しい失恋の傷を癒しに  
何度も通った思い出もキユンと  
心の中にある。

鎌倉校に入学するまで、海はた  
だ海水浴に行くというだけの、  
それもカナヅチの私にはさほど  
魅力はなかった。しかし、毎日  
あの駅から海を見て電車を待つ  
うちに、決して一つではない、  
たまらない哀愁のある、日ごと  
に変わる海の色を知ったのだ。  
啄木のように、砂を握りしめ  
て、サラサラと落ちる儚さを

知ったり、繰り返し打ち寄せる  
波の音に癒されもした。

鎌倉校に入学していなかった  
ら、こんな風に海を好きになる  
こともなかっただろう。

平成になって二十七年にもな  
るが、昭和の三十年代、昔の東  
京オリンピックの聖火が走った  
ときに、私はこの鎌倉校に入学し  
たばかりだった。

校舎はなだらかな山に沿っ  
て、美しい赤い屋根の木造校舎  
だった。なぜか、鎌倉高校前駅  
に降り立つと、必ず心はタイム  
スリップしている。怖い先輩  
の声が体育館に響いた応援練習  
や、カナヅチをなんとか浮かぶ  
までにしてくれた体育の水泳  
や、授業はどうしたのかなと心  
配になるように、いつも草むし  
りをしていらした先生や、思い  
出はいつになっても老人を若返  
らせてくれるようだ。

取り留めもない文章になって  
しまったが、私の高校時代はま  
さに、とりとめもなくほわーと  
鎌ボケそのもので、たまらな  
くいとおいしい。

# 『鎌高卒、若き優れたアーティスト 漆原夏樹』

はじめまして、1996年卒業生の漆原夏樹と申します。この度東京芸術大学での恩師、関出先生のご紹介によりこのような形で文章を書く機会をいただきました。私は高校卒業後に美術予備校、東京芸術大学を経て現在、画家として生活し活動しているのですが、美術の世界、とりわけ自分が出自としている日本画の世界は一般的にはなかなか馴染みがないのではないかと思います。せっかくこのような機会をいただいたので、私の現状への至り方や作品についての話を軸に、美術を生業としてお伝えできればと思います。

まず、日本における美術の存在意義について、私の認識のもとお話ししたいと思います。私は美術予備校の講師として学生時代から17年、高校の美術教師としては6年目になり、それなりに美術教育に携わってきているのですが、その間徐々に美

大受験者数は減り続け、中学・高校でも教科としての美術の時間は削られつつあります。このような実利主義的な傾向を感じるにつけ背筋が薄ら寒くなるのを感じるのですが、美術は決しておまけのような道楽的なものではなく、人が生きる上で必要不可欠なものです。それを証明する実例を挙げると枚挙にいとまがないのですが、一つの事実として次のような話が挙げられます。

1970年代のニューヨークではかつてのスポーツシヨックやベトナム戦争後の不況の影響により美術や音楽等の芸術系科目を減らし、主要教科の科目を手厚くする教育方針に転換したところ、時を同じくして若者の犯罪率が増大し始めました。当時は全く解決の糸口が掴めないでいたのですが、様々な教育上の試行錯誤の末に思いもかけないところに解決方法が見つかりました、それは美術を

含む芸術系科目の復活でした。押さえきれない鬱憤や言葉にならない思いを作品に昇華することにより若者の素行の悪化がびたりと止まったのです。なんだけ古いマンガのような出来すぎた話なのですが、これは一つの歴史化された事実として記憶されています。

このように人間である以上、意識、無意識に関わらず表現することは生きる上で必要不可欠なものではないでしょう。か、美術はその形にならないものを形にする作法であり、それは人として生き抜く上で大きな力になるものと確信しています。

また、現実的に就職の現場においても美大生の実質的な就職率（平均90%前後）は高く様々な需要があります。これはどの分野においても、今後は記憶や特定のタスクを処理することに特化した能力が変わって、美術を学んだものが得意とする、物を俯瞰しその本質を理解し問題を創造的に解決していく能力が必要とされていることのあるわけでもあります。また、これから起こるであろう様々な変革においても、このような美術を基盤において振る舞いは、あらゆる場面において豊かにその場を作り換える力を有していると考えています。

このように美術はなにか枠に入れられた特別なものではなく、本来は人として生きる上で非常に身近な存在です。生活の場においても、かつては浮世絵をアイドルポスターのように眺め、また床の間に絵を掛け四季に合わせ異空間を演出することを楽しんでいたように、日本では美術が生活に密接に関係しそれを愛でる文化がありました。今は残念ながら、住宅事情や前述の学校教育における美術に對しての触れ方の変化により、価値観が変わってきているのかもしれないかもしれません。しかし、今一度身近なところから美術に触れ、絵を美術館で眺めるだけではなくかつての日本人がそうだったように、思い入れのある絵を

購入し身近におき、人生を共にすることで生活が遥かに豊かになるのではないでしょうか。いささか絵描きにとつてセールストーク気味な物言いになってしまいました。これからお話しすることで少しでも美術に興味を持ち、身近に美術に触れるきっかけになっていただければ幸いです。

私が美術を志した場所として、鎌倉高校在学時はどんな感じだったのか：ちよつと昔の話になってしまい、懐かしい思いに浸りたくなってしまうのですが、少し思い出してみたいと思います。当時はほぼ部活動中心の生活で私は陸上部に所属し400mハードルを専門競技としていました、選手としては県大会どまりの大したことないものだったのですが、自分の能力をいかに向上させるか、勝負に對してどう向き合うかなどの個人競技独特のロジックは、今思えば作家として生きていくにあたり少しは役に立っているように感じます。ちなみに学業は地を這うような低空飛行で職員室で追試を受けさせていた

き、単位を確保できたことはいまだにありがたく思っております…。

この頃、高校二年の冬頃から鎌倉にある美術予備校に通い始めました、1995年の冬なのでちょうど今年で20年になります、早いものです…。当時、美術の授業でお世話になっていた鶴沢先生の紹介で通い始めたのですが、ここでの出会いは大きく、今だに作家として研鑽を積み、磨き合う仲間に巡りあえたことは大きな財産となっています。今の妻との出会いもこの予備校でした。当時、地の利もあつたため鎌倉高校からもこの予備校に何人も通っており、同級生のライバル達がいたことも良い刺激になりました。私は始めるのが少し遅かった為、先に始めていた友人達と圧倒的な差があり、自分も少しは才覚があるだろうと思っていたためかなりのショックを受けました。陸上で中途半端だったため、絵だけは譲れない：と当時考えていた自分としてはなおさらです。その後、とにかく誰よりも多く描く：という体育会系な

らではの盲目的努力により、2年程かかりなんとか芸大に合格できました。かつて圧倒的に先にいた存在が気が付くと自分のほうが前にいた、当時はその事実が合格よりも嬉しかったと記憶しております。

話は前後しますが、ここで私が当時なぜ美術の中で専門分野として日本画を選んだのか、また日本画とはどういうものなのかをお話ししたいと思えます。当時、進学するにあたりなんとか自分の特技を生かして進めないかと考えていたため、進路は美大進学一択でした。最初は確実に食べていくことを考え、美大進学希望者にとつてはポピュラーな選択としてデザインの方を考えていたのですが、自分の特性や大学で作られる作品を見るにつけデザインではなく絵を描くことに魅力を感じはじめ、また能力として日本画受験で得られる高い基礎描写力は、将来なんらかの美術系の職につくにしても役に立つだろう：という、何か素晴らしい日本画を見たとか、憧れの作家がいる、というような口マン溢

れる動機ではなく極めて実利的な動機が選択の根拠だったと記憶しています。

そして、私が軸足を置く日本画とはどのようなものなのか、今の私の認識と確認できる事実のもとお話ししたいと思えます。

まず何を持ってして日本画とするかなのですが、水墨画や花鳥風月を主題とした襖絵や掛軸が一般的にイメージされることが多いのですが、今は主題となるものが様々な存在し具象的な表現から抽象的な表現まで、油画で表現されたものやイラストレーションなども一見して見分けがつかないほど幅が広がっています。また素材においても伝統的と言われている日本画材の使用にとどまらず、アクリル絵具などの新しい素材を併用する作家も現れました。このように様々な価値観のもと表現の幅が広がり、その定義は曖昧でいまだに答えのない議論が続いているのが現状です。日本画という名称も1882年に龍池会(明治初期の美術団体)における美術真説という講演で、当時

お雇い外国人として東京帝国大  
学で教え、日本美術に強い関心  
を示していたアーネスト・フェ  
ノロサが日本の絵画に対して使  
用した *japanese painting*  
の翻訳が『日本画』という  
名称の初出となります。

その後、フェノロサの通訳兼  
助手をつとめていた文部省図画  
取調掛の岡倉覚三(天心)の手  
により、当時勢いを強めようと  
していた洋画に対して、それに  
対抗しうる新しい日本の絵とし  
て西洋の考え方や利点を取り入  
れつつ、従来の日本の絵を発  
展、進化させたものが今の日本  
画の原点となります。ここでポ  
イントとなるのは日本画とはこ  
のときに作られたものであり、  
それ以前の日本の絵描きである  
伊藤若冲や狩野永徳、葛飾北斎  
などは厳密には日本画家では  
ない点です、また富国強兵の一  
環として当時の国家を代表する  
美術として明治以前の諸流派で  
ある狩野派、土佐派、円山・四  
条派等を統合し作られたとい  
う側面も在るのですが、意図的  
に排除された流派もあり日本  
画を理解する上で精査が必要

となります。

そして作画の際扱われる、和  
紙、絹、膠、岩絵具、墨、箔、  
胡粉：等の伝統的な材料の使  
用が広く日本画を定義する根拠  
として語られますが、狩野芳崖  
の『仁王捉鬼』においては日本  
画材にはない色幅を獲得するた  
め、フェノロサや岡倉天心の意  
向もあり積極的に西洋顔料が使  
用されています、この点からも  
日本画の理念上も日本画材の使  
用が必ずしも必須という訳では  
ないことが分かります。また、  
現代中国の工筆画をはじめ広く  
アジアにおいても、岩絵具のよ  
うな鉱物顔料等を膠で基底材に  
定着させるといった技法は存在し  
ており、このような事実からも  
日本に古くから伝わる伝統的な  
素材を使用して描けば日本画に  
なるかという点、その論理は日  
本画を定義づける上でかなり根  
拠の脆いものと言わざるを得ま  
せん。

また、当時は対立しながらも  
お互い影響を与え合い発展しつ  
つ共存していた洋画も、現在は  
形骸化されたものが残るのみで  
本質的なものは現代美術に回収

されているように見えます。こ  
のようにかつての共依存とも言  
える存在が時代の流れのなか現  
代美術に回収された現在、日本  
画の寄る辺はますます心もとな  
くなりつつあります。

ただ日本画の存在意義と可能  
性を探る動きはまだ死んだ訳で  
は在りません、戦後すぐに国家  
の名を冠したが故にその存在を  
問われ、日本画滅亡論の中で  
様々な駆け引きにより命脈をつ  
ないだように、今現在もまた新  
たなターニングポイントにさし  
かかっているように感じます。  
あるものはより禁欲的に日本画  
以前の良きものを求め技法材料  
から問い直し、またあるものは  
岡倉天心の遺志に連なる系譜で  
さらに思索を深め、そして他方  
では国外まで視野にいれ現代美  
術の文脈で日本画の概念の存在  
意義を問う、今は以前にもまし  
てそれぞれの作家の理念のもと  
様々な活動が行われています。

このような多様な探求こそが  
現代日本画の姿であり、そして  
それは日本画を超えた何かを生  
み出す胎動のようでもあり、作  
者それぞれの信じる理念のもと

様々な日本画が生まれつつある  
のだと私は考えています。

長々と専門的な話しに寄りす  
ぎてしまいました、ここで日  
本画科に入学後の私の話しに戻  
りたいと思います。

大学入学後もしばらくは、才  
能ある同級生たちに揉まれなが  
ら好きな絵を学んで、卒業後は  
ゲーム会社にでも就職してイラ  
ストレーターに……と考えて  
いたのですが、描き続けるうち  
に周りで見劣りしないものがで  
きるようになっていき、描けば  
描くほど求めるものが高まり、  
のめりこみ、気が付けば就職の  
ことはさっぱり忘れ、大学院へ  
の進学を考えていました。

そして実力試しで描いた卒業  
制作もそれなりに評価していた  
だし、絵を描くモラトリアムの  
延長としてめでたく大学院へ進  
学、こちら辺から当初考えてい  
た人生設計が狂い……大きく舵  
をきりかえていくことになりま  
した。そしてまた修了が近づき  
自分の研究と制作をいかに続け  
ていくかということを考え、一  
つの選択肢として大学に残るた  
めに博士課程を受験したのです

が合格できず、そこでモラトリウム終了、めでたく、大学院修了となりました。

この展開を全く予期していなかった自分としては、まずは制作場所を確保する為に急遽小さな平屋を借り、学生時代から勤務していた美術予備校での収入ではぎりぎりの家計でしたが、なんとか制作を開始しました。その後、博士課程受験のために描きためた作品で初個展を開き、この時初めて何点か作品が売れそれなりの手応えを感じることができたのですが、インターネット上ではかなり手厳しい批判もあり、逆に制作を続ける上で大きな力を得ることができました（ちなみに何年か後の個展で、ご批判いただいた本人に作品を絶賛されとても救われた経験をしました）。

この個展でそこそこ良い反応を得ることができ、個展を開催した貸し画廊で翌年、グループ展に参加することになったのですが、この展覧会では今までの作品の方向を大きく変えることになりました。学生の頃から人物を主題に描き、視覚的な快樂

のみを追求した作品を描いてきたのですが、個展をあらためて振り返りその恣意的かつ表層的な美しさのみに支配される画面に疑問を抱いたためでした。そして、大学院時代に関先生に「ただ清書し整えるだけではなく、表現したい本質に向かえ」というような言葉をかけられ、それが今さらながら頭をよぎったのも大きな要因でした。人物以外の主題でもっと絵画としての豊さを追求できないだろうか：

もう一度自分の思想と表現を見つめなおし様々な模索の結果、今の作風に繋がるきっかけを掴むことが出来たように思います。またこの時に展覧会を開催した画廊オーナーが手厚くサポートして下さい、おかげで作品を見に来てくれた企画画廊のギャラリストに声をかけられたことが自分にとっての最初のターニングポイントになりました。なぜここがターニングポイントになったのか、それをお伝えする為にここで美大を卒業後、作家としてどのように活動し身を立てていくのかを自分が体験し、知りうる範囲で少しお話し

したいと思います。

日本画科を卒業した場合どのように活動していくのか、それぞれの方向性の中でもさらに枝分かれしていくのですが、主に以下の2通りの方向に分かれています。

①団体展に出品し入選を重ねて作品を発表していく方向。②団体展に属さず自力で展覧会を開き発表していく方向。それぞれにメリット、デメリットはあるのですが作家本人の思想や作品内容の方向性により最適の方法を選択していきます。

①の団体展とは、主に日本画では院展、創画展、日展などの団体で、それぞれが思想の違いはあれど日本美術史に足跡を残す傑出した作家を輩出しています。そして、ここで出品を重ね入選、受賞していくことにより知名度と作品評価を高め人脈を拡げることにより、美術館等への出品、収蔵をはじめ、百貨店の美術画廊や日本画系画廊による企画展に参加し作品を発表、販売していくというような活動になっていきます。

また②の団体に属さず無所属

で活動していく方向は、作家が自費で貸し画廊を借り作品を発表しつつ、様々なコンクール等に出品し受賞を狙い、知名度と評価を高めることによって発表の機会を増やしていきます。また企画画廊等の取り扱いとなり協働していくことで国内外のアートフェアや様々なプロジェクトに参加する道が開け、さらに発表の機会を拡げ作品の価値を高めていきます。これは一般的に現代美術における活動展開と同じものとなります。

私は②の方向で活動を展開してきたのですが、前述のグループ展において企画画廊の取り扱いはなくなったことが最初の大きなターニングポイントになりました。なぜなら、日本では主に発表の場として貸し画廊と企画画廊の2種類があるのですが、そこを舞台に作家が活動を展開していくにあたりその2つには大きな差があるからです。

貸し画廊はその名のとおり作家に6日で20万〜30万円ほどの賃料で場所を提供する、いわばレンタルスペースのようなシステムなのですが、その画廊特有

の人脈や顧客を抱えており、作家としては次に繋げるチャンスを得る重要な機能を持つています。企画画廊は画廊主導で展覧会を企画していきます。そのため、画廊の経費で展示場所を提供し、宣伝、作家のプロデュース等のマネージメントを行い、また画廊での展覧会をはじめ国内外アートフェアへの出品や美術館等への収蔵を働きかけることで、より広く作家の活動をサポートしていきます。

この2つの画廊の差で最も大きいところは画廊側がリスクをいかに取っているか、という点です。貸し画廊のほうは作品が売れた場合の画料（作家の収入）が発表価格（画廊での売値）の8〜9割なのですが、たとえ売れなくてもすでに画廊代は支払われている為、画廊側の金銭的なりスクはありません、また大きな出展費がともなうアートフェア等の場所への発表の展開はほぼありません。企画画廊は前述のとおり、画廊の経費で全てを賄うため、作家への画料は発表価格の3〜5割ほどになります。作品を発表前に

先に買い上げて展覧会を開催する場合もあり、また海外への紹介も含めアートフェアやオークション、美術館等への展開にもなう様々な交渉や事務処理、支払いを画廊側が行う為、金銭的なもの以外にも様々なリスクを負って長期的な視野で作家と活動を共にします。

以上のようにプロとして作家業を継続し作品を高めるチャンスを得るためにも、パートナーとして企画画廊と協同していくことは必須の条件となり、そこが作家として活動する上で大きなターニングポイントとなる所以です。

企画画廊で取り扱われるようになってからは1年半ごとに個展を開催し、定期的に国内外のアートフェアやオークションに出品し続けているのですが、次の大きなターニングポイントは一昨年、昨年と海外のオークションで成果を残せたことと、昨年のトリエンナーレ豊橋というコンクールでの大賞の受賞でした。

海外のオークションではどのような展開があったかという

と、クリスティーズという世界最大手のオークション会社の香港で開催されたオークションでの出品だったので、ここで出品作品が完売し、それぞれ落札予想価格の2〜3倍の価格がつきました。また余談なのですが、この時にクリスティーズ香港のバイヤーだった方が、以前ニューヨークで行われたアートフェアで私の作品をプライベートで購入していて、偶然にも落札現場に居合わせ作家の躍進を目撃できてとても喜んでいた、という話を聞いたときは作品を巡る不思議な縁を感じ嬉しくなりました。ここでこのような形で結果を残せことは大きく、海外で作品を発表していくときに作品価値の担保になることと、記録としてしっかり残る為アジア圏以外に展開する場合も紹介しやすくなります。このような形でプライマリー（一次販売の企画画廊）がセカンダリー（オークション等の二次販売）から出品するということは、従来あまり好ましくないとされてきたのですが、オークション会

社もこれからの展開として、一次販売としても作家を紹介し、積極的に美術の文脈と共に価値を作ることに携わるという方向になってきている為、前列がないのですが私も関わっていくことになりました。

そしてこちらは国内での話になるのですが昨年、トリエンナーレ豊橋という日本画系では最も高水準であるコンクールで大賞を受賞したことも大きなターニングポイントになりました。この受賞により作品が豊橋市美術館に収蔵され、また先日（2015年3/20〜4/4）開催された個展でもメインの大作がある企業のコレクションに加わり、国内での活動はこの受賞により新たに開けてきました。

以上のように右往左往しながらも活動の幅を拡げつつ今に至るのですがその間、結婚、娘の誕生と私生活でも色々な変化がありました。同じく作家として活動している妻や周囲の理解もあり、なんとか絵を描き続けることができ深く感謝しております。

ざっと私の活動を軸に、絵描

きとしてどのように社会と関わり作品をつくっていくのかをお話ししたのでありますが、このように作品を介して身入りがあるように見えても、実際はまだ作品のみでは生活できません。実際に芸大同期の卒業生25人のうち、作品の画料のみで生活できているのは、知り得る範囲では独身の友人一人だけです。

ではどのように糧を得て生活していくのか、絵描きは何か清貧なイメージのもと、貧乏に耐え忍び命を削りながら絵を描き続けるというストーリーがありがち（あえて自己ブランディングの元、そのようなイメージを使う戦略もあるのでしょうか……）なのですが、霞を食べて生きられる訳ではなく、一市民としてのリアルな生活がここにありま

の副業を抱えています。一年ごとに更新とこちらも非常に不安定なのですが、週3〜4日で県立高校の非常勤講師と美術予備校の講師を掛け持ちしてぎりぎりの月収を維持し、妻の収入と不定期で入ってくる画料でなんとかやり繰りして、子どもを育てているのが現状です。

そして、美大を卒業し作家業を続けるにあたり最も苦心するのが仕事と制作時間のバランスです、私は仕事と家事育児以外の時間のほぼ全てを制作に費やしながら制作を続けているのですが、今後、作家活動を拡大し作品の質を高める為には少しずつ仕事を減らし制作活動の比重を高めることが必須です。しかし、制作時間を増やしつつ生活を維持する為には画料の収入を増やしていかなばならず、難しいところではあります。

年齢的に作家として作品を作り続ける上でも、平均寿命まであと約42年、現状だと年間20枚弱が描ける限界なので単純計算で840枚、健康を維持しつつも体力の衰えを考慮した現実的な枚数は600枚前後かもしれ

ません。このように今の自分に残されている時間を考えると無限に描けるわけではありませんが、作品テーマを厳選し生活と制作のバランスも含め今後の方向性を深く考える時期に来ているように感じます。

以上のように、日常の様々な案件を天秤にかけつつも充実した日々を過ごしているのですが、美術を生業とするものの生き様の一つのサンプルとして記憶していただけなら幸いです。

最後に私の作品について、現在考えていることをお伝えしたいと思います。私の作品と制作に対する考えは先日行われた個展において発表したステイメントに集約されますので、それをここに記します。

『世界をより深く認識したい、そうすればより美しいものを見て触れることが叶うのではないか、その願望がわたしが絵画を作る上での根源的な動機となっています。』

世界を認識する為の作法を探るうえで、日本画を出自としている自分にとって写生という概念は有効な手がかりとなりました。

た。目に映るすがたを写しとることから始まり、より俯瞰してそれらの関係性を見つけ世界の在り方を探ること。それは今のわたしが絵を描く上で、最も基本的な思考理念となっています。わたしには幼い娘がいるので

すが、子育てをすることは娘とおしてあらためて世界を認識しなおすことなのだと感じています。日々生活するなかで、娘が見たこと感じたこと、そして其処にただ存在するというその在りようそのものを写生し絵画として描き出すことができないだろうか、それが世界をより深く認識する手がかりとなりなるのではないか、そのような思考を始点に作画を進めていきました。

そこにいる、在るとはどういうことだろうか。人と対峙したとき、そこにその存在を象徴するような形象や風景のようなものを感じるがあります、それは肉体としての特徴や仕草、語る言葉や纏った雰囲気など様々な因子が絡み合って現れる魂の形なのかもしれません。そのような、人のような風景のよ

うな形象、それぞれが境界を曖昧に絡み合う状況を写生し絵画としてつくりだすことで、知覚し得ない次元での存在の認識を可能にするのだと考えています。また、それはただ目の前に存在するという、世界の謎の一端に触れることでもあり、そこにわたしが求める一つの美しき真理があるのではないか、それを見ることを希求しつつ今は筆を運んでおります。』

なぜ私が絵を描き続けるのか、これは家族の為でもましてや娘の為でもなく、全て自分の衝動が発端になります。そういう意味では絵描きとは罪深い存在なのですが、それが私が世界に対してなにかよきもの還元で



彼女の風景



春の景色



彼女の風景

きうる唯一の方法でもあり、またそこを考えぬき描き続けることが作品を高めていく道筋なのだとは考えております。

### 「プロフィール」

漆原夏樹

Urushihara, Natsuki

1977年

神奈川県藤沢市生まれ

1996年

神奈川県立鎌倉高校

普通科卒業(平成8年)

2001年

東京藝術大学美術学部

絵画科日本画専攻卒業

### 受賞

2003年

東京藝術大学大学院  
美術研究科日本画専攻修了

2014年

『星野眞吾賞(大賞)』

『星野眞吾賞展 第6回  
トリエンナーレ豊橋』

「明日の日本画を求めて」

2014年

藤沢市

「生涯学習特別貢献表彰」

### 個展

2015年 個展

ギャラリー 広田美術 / 東京

アートフェア東京 / 東京

2013年 個展

ギャラリー 広田美術 / 東京

2012年 個展

ギャラリー 広田美術 / 東京

2010年 個展

ギャラリー 広田美術 / 東京

2008年 個展

ギャラリー 広田美術 / 東京

2006年 個展

アートスペース 羅針盤 / 東京

その他コンクール・グループ  
展多数

### ホームページ

<http://urushihara-natsuki.net>



# 部活動報告

## ●●● 運動部 ●●●

### ■アメリカンフットボール部

私たちがアメフト部は昨年良い戦績を残せなかったのですが、今年は春季大会で結果を出せることを目標に頑張っています。アメフト部は個性豊かな部員の集団で、一つにまとまるともの凄い力を発揮する元気がいっぱいいるチームです。もちろんアメフト経験者はいませんが、最初はみんな初心者です。だから自分の努力次第でいくらでも強くなれます。アメフト部は今までの自分を変えることができます。



### ■カヌー部

き、遅しく成長できる素晴らしい部活だと思います。

去年は、たくさんさんの応援ありがとうございました。主な試合成績は、関東大会3位、関東新人戦が2位というものでした。また、高体連外の試合で選抜されて、東京のJISSと韓国で行われた日韓の合同合宿などにも参加しました。今年最後の一年となりますが、フォームの修正など潛力をアップして、さらなる好成績を目指し全力で頑張りたいと思います。



### ■弓道部

僕たちは2年生15人、1年生12人の計27人で活動しています。残念ながら昨年度はあまり目立った成果は上げられませんでした。部員全員が「正射必中」の精神のもと、各々の目標をもって日々の練習に励んでいます。



### ■男子硬式テニス部

男子硬式テニス部の活動日は月、火、木、土です。平日は16時から2時間半、土曜日は4時間と時間を決めて集中して練習し、試合に臨んでいます。なかなか大会で結果を出すのは難しいですが、先輩方を目標にして日々努力しています。

<p>株式会社 ミルススペース 代表取締役 <b>田中 正明</b> (昭和36年卒) 〒251-0052 藤沢市藤沢973番地 相模プラザ第3ビル6階 TEL:0466-23-3012 FAX:0466-26-6509</p>	<p>ミマツ音響株式会社 代表取締役会長 <b>山本 泰弘</b> (昭和30年卒) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町1-7-3 TEL:03-3253-6483 FAX:03-3253-9080</p>
<p>江島神社 宮司 <b>相原 窓彦</b> (昭和39年卒) 〒251-0032 藤沢市片瀬4-14-21 TEL:0466-22-4324 FAX:0466-22-4324</p>	<p>ケンジグループ 創業者 <b>飯嶋 勝男</b> (昭和38年卒) 〒251-0024 藤沢市鶴沼橋1-17-5 TEL:0466-26-0309 FAX:0466-27-1322</p>
<p>株式会社 ワイエスシー 代表取締役 <b>小泉 稔</b> (昭和40年卒) 〒220-6213 横浜市西区みなとみらい2-3-5 クイーンズタワーC13F TEL:045-227-5711 FAX:045-227-5747</p>	<p>有限会社 東昭産業 代表 <b>松中 芳治</b> (昭和40年卒) 〒248-0006 鎌倉市小町1-3-5 TEL:0467-22-1908 FAX:0467-25-3411</p>

れからも応援よろしくお願  
いします。

■女子硬式テニス部

私たちは、楽しくお互いを高  
め合いながら活動しています。  
元気とチームワークで日々の練  
習を盛り上げて頑張っています。  
昨年年度の湘南地区大会の  
団体戦では、準優勝という結  
果を得ることができました。  
顧問の先生やコーチ、卒業生の  
方々など周囲の人々に恵まれて  
いるので、感謝の気持ちを忘  
れずに、県大会に向けてより  
いっそう練習に励みたいと思  
います。応援よろしくお願  
いします。



■サッカー部

こんにちは、鎌倉高校サッ  
カー部です。現在2年25人、

1年33人で活動しています。  
去年の活動実績は多くのケ  
ガ人に悩まされながらも部  
長の水島君を中心に全国高  
校サッカー選手権神奈川予  
選の2次予選までいくこと  
ができました。そして、僕  
達の代になり、今まで先輩  
たちが培ってきた伝統を守  
り、新たな歴史を作ってい  
く為に努力を惜しまず、仲  
間を信じ、自分を信じて  
チーム一丸となり励んでい  
きますので応援よろしくお  
願いします。

■水泳部

水泳部は現在2年生11人、  
1年生9人の計21人で夏は  
水中、冬は陸上を中心に活  
動しています。男女や学年  
の壁はなく、お互いに教え



合い、切磋琢磨して練習に  
励んでいます。今年度は個  
人、リレーともに女子が関  
東大会に出場しました。ま  
た、今まで参加していな  
かった湘南地区大会にも出  
場し、総合2位を獲得しま  
した。来年度も1人ひとり  
が自らの目標を超えられる  
こと、関東大会に出場する  
ことを目標に頑張ります。  
応援よろしくお願いします。

■スキー山岳部

僕たち、スキー山岳部は基  
本的に週4日、海岸を走っ  
たり、筋力トレーニングな  
どをして、体力づくりを励  
んでいます。そして月に  
1回程度、主に丹沢で登  
山をしています。昨年の  
夏合宿では八ヶ岳の赤岳



<p>株式会社 林塗装店 代表取締役 林 澄雄 (昭和40年卒) 〒251-0052 藤沢市藤沢576 TEL:0466-27-1761 TEL:0466-22-3043</p>	<p>株式会社 ウェルカム 代表取締役 増田 隆之 (昭和40年卒) 〒251-0052 藤沢市藤沢559 角若松ビル TEL:0466-25-3005 FAX:0466-25-3006</p>
<p>理事長・園長 山田 誠一 (昭和41年卒) 学校法人 北鎌倉学園 おおぞら幼稚園 鎌倉市大船5-10-35 TEL:0467-46-2932 FAX:0467-46-2948 プレップ おおぞら保育園 (定員:0歳9名 1歳12名 2歳24名) 鎌倉市大船4-21-1 TEL:0467-46-1071 FAX:0467-46-1070</p>	<p>総合建設 大沢組 代表 大沢 廣和 (昭和41年卒) 〒251-0052 藤沢市藤沢3-2-14 TEL:0466-22-2225 FAX:0466-22-3119</p>
<p>株式会社 齋藤商店 代表取締役 齋藤 光久 (昭和42年卒) 〒251-0037 藤沢市鶴沼海岸3-1-7 TEL:0466-36-3188 FAX:0466-33-3380</p>	<p>鎌倉山田屋 岡本 治男 (昭和41年卒) 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下3-8-29 TEL:0467-22-0338 FAX:0467-24-8497 MAIL: mail@kamakura-yamadaya.jp</p>

(2899m) に登頂しました。冬期は登山が制限されているため、スノースポーツにも取り組んでいます。現在、部員の総数が5名と少数であるため、今年是新規部員の獲得へ向け、勧誘活動に全力を注ぎたいと思います。



■**体操部**

体操部は、2年生3人、1年生3人の6人で活動しています。人数は少ないですが、みんな仲良く元気に部活を頑張っています。体操部はOB・OGの先輩が本当に優しく何代も上の先輩までいつも部活を応援して下さいています。コーチもOGの先輩がして下さいています。去年は大会に出て表彰されたり、大きな大会に進むなどいろいろな結

果が出ました。今年も1年生、2年生それぞれの目標に向かって頑張りたいです。



■**卓球部**

3年生が引退してしまった後は少人数になってしまいました。ですが、コーチも毎週のように教えに来てくれるのでしっかりと練習しています。試合の前には他校の練習に参加させてもらって実践練習しています。今年1番の実績は4月の湘南地区関東大会予選で準優勝し推薦選手となり、県予選会出場権を獲得したことです。来年の抱負としては新入生の勧誘をがんばって多くの

1年生に入部してもらいたいと思っています。そしてまた高校生活最後の思い出となるような悔いの残らない試合をしたいと思います。



■**ダンス部**

ダンス部は現在55人で活動しています。昨年度は、大きな隊形移動やスタuntsを組み込んだパワーアップバージョンのチアダンスを作ったり、県主催の「恋チュン高校生ダンスコンテスト」に参加したりするなど、新たな取り組みをたくさん行いました。また、1月の県新人コンクールではCAをテーマにした「フライト55」Attention please」という作品で74校中19位でした。

<p><b>フライスター株式会社</b> 代表取締役 <b>関 全男</b> (昭和43年卒) 〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-6-1 TEL: 045-470-0330 FAX: 045-474-3768</p>	<p><b>株式会社 イシイフーズ</b> 代表取締役 <b>石井 英樹</b> (昭和43年卒) 〒251-0047 藤沢市辻堂1-8-29 TEL: 0466-34-7072 FAX: 0466-34-7072</p>
<p><b>株式会社 小池 造園</b> 代表取締役 <b>小池 一彦</b> (昭和45年卒) 〒251-0004 藤沢市藤が岡2-9-5 TEL: 0466-22-5550 FAX: 0466-24-4295 e-mail: kazz1951@kz-koike.ecnet.jp</p>	<p><b>株式会社 湘南薬品</b> 代表取締役 <b>曾我 壽裕</b> (昭和44年卒) 〒251-0025 藤沢市鶴沼石上2-1-17 TEL: 0466-26-3336 FAX: 0466-26-6723</p>
<p><b>ダスキン メリーメイド藤沢南店</b> <b>鈴木 勝貴</b> (昭和45年卒) 〒251-0056 藤沢市羽鳥4-12-33 フリーダイヤル: 0120-460-770</p>	<p><b>鈴木運輸株式会社</b> 代表取締役 <b>鈴木 勝貴</b> (昭和45年卒) 〒251-0056 藤沢市羽鳥4-13-33 TEL: 0466-34-1118 FAX: 0466-34-1119</p>

今年度も応援よろしくお願  
い  
します。



■バドミントン部

私たちは、男女計46人で、互いに競い合いながら日々活動しています。女子は、21年ぶりとなる関東大会出場を果たし、更に2回戦に進出しました。春の総体県予選ではベスト8、秋の新人戦でも個人戦ダブルスベスト8、団体ベスト16と常に県大会の上位で戦い、日々躍進を続けています。男子は、夏季大会・新人戦と湘南地区で団体2位という結果を残しました。個人戦も県大会に出場はしましたが、県大会では結果を残せなかったのです。今年地区大会では優勝、県大会ではベスト8を目標としてが

んばります。ここまでバドミントン部が代々結果を残すことができるのは、チーム一丸となって切磋琢磨していることはもちろんですが、OB・OGの方が部活に来てくれたり、試合の応援に駆けつけてくれたり、シャトルの提供をしてくれたりと支えてもらっているお陰だと思っています。たくさんの方が支えてくれるからこそバドミントンができることに感謝して、今年の春も団体で関東大会出場ができるようチーム一同頑張りたいと思います。



■男子バレーボール部

こんにちは！男子バレーボール部です。私たちは現

在、選手が2年生4人、1年生9人、マネージャーが2人と1年に一人ずつ、計15人で活動しています。今年度からはコーチにご指導いただいております。部員全員で日々切磋琢磨し、より充実した活動を行っています。そして冬の公式戦では念願の初勝利を収めることができました。今年もより良い実績を残せるように精進していきます。応援、よろしくお願ひします！

■女子バレーボール部

私たち女子バレーボール部は3年生7人、2年生4人の計11人と新入生を迎えて、週に5日から6日活動しています。昨年度に引き続き、秋の湘南地区大会で準優勝、また春と冬の大会でどちらも県大会に出場することができました。人数は多くないですが、みんな日々一生懸命練習に取り組んでいま

<p>有限会社 成勢商店 成勢 啓一 (昭和48年卒) 〒252-0816 藤沢市遠藤2480 TEL:0466-87-0021 TEL:0466-87-0023</p>	<p>渡辺啓二税理士事務所 税理士 渡辺 啓二 (昭和46年卒) 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸3-19-20 TEL:0466-21-8150 FAX:0466-21-8151</p>
<p>株式会社 水落建設 代表取締役 水落 雄一 (昭和51年卒) 〒251-0015 藤沢市川名801 TEL:0466-26-1601 FAX:0466-23-6019</p>	<p>しらすと地魚料理・旅館 かきや(腰越電車通り) 代表取締役 戸倉 孝二 (昭和50年卒) 〒248-0033 鎌倉市腰越3-7-24 <a href="http://ishonan.com/kakiya">http://ishonan.com/kakiya</a> TEL:0467-32-4828 FAX:0467-32-4180</p>
<p>株式会社 湘南セールスプロモーション 櫻井 淳 青野 久美 (昭和55年卒) 〒251-0025 藤沢市鶴沼石上1-8-10-101 TEL:0466-25-1035 <a href="http://shonansp.com">http://shonansp.com</a></p>	<p>有限会社 立花屋 代表取締役 叢 秀樹 (昭和51年卒) 〒251-0055 藤沢市南藤沢2-1-3 ダイヤモンドビル内 TEL:0466-22-2373 FAX:0466-22-2373</p>

す。新 3 年生は残り少ない時間を大切に、良い成績を残せるよう努力していきま  
すので、応援よろしくお願  
いします。



■男子ハンドボール部

平成 26 年度の男子ハンド  
ボール部は春の県大会で久  
しぶりに 16 強入りし、夏の  
湘南地区大会では前年度と  
同じ 3 位でした。日没が早  
くボールの見えにくい冬の  
放課後の練習のために、従  
来のライトに加えて新しい  
ライトを設置していただき、  
練習が有意義なものになり  
ました。現在は部員が 38 名  
と多く、互いに競い団結し  
て、再度県 16 強入りするこ  
とと、その維持を目標とし、

日々部活動に励んでいます。

■女子ハンドボール部

私たち女子ハンドボール部  
はプレーヤー 11 名、マネー  
ジャー 2 名の計 13 名で活動  
しています。昨年の大会で  
は県ベスト 16 になることが  
できました。しかし最近で  
は実績を残せず、1 月の大  
会では 1 点差で敗退という  
悔しい結果となり、チーム  
全員で 1 点の重みを実感し  
ました。絶対にその悔しさ  
を忘れず、先生方やコーチ  
OB の方々への感謝の気持  
ちと、伝統である女ハンの  
明るさを大事にして元気に  
活動していきます。これか  
ら応援よろしくお願いい  
たします。



■陸上競技部

陸上部は、一人ひとりが自

分たちの記録を更新するた  
めに、目標を持って一生懸  
命練習しています。昨年、  
女子は県高校駅伝大会に出  
場し、さらに男女とも鎌倉  
市駅伝大会に出場しまし  
た。また個人では、湘南大  
会において入賞したり、二  
次予選進出を果たすことが  
できました。来年度は、団  
体種目だけでなく、個人種  
目でも県大会に出場でき  
よう頑張りたいと思います。



●●●文化部

■茶道部

昨年度は 1 年生が女子 4 名、  
男子 3 名、計 7 名も入部し  
てくれましたので、茶道部

<p>司法書士法人 湘南リーガルオフィス 司法書士 石田 宏治 (昭和58年卒) 〒251-0052 藤沢市藤沢1027番地2 TEL: 0466-27-7505 FAX: 0466-27-6966</p>	<p><b>市川栄石店</b> ICHIKAWA 価値ある逸品もかけがえのない一品も ⇒リフォーム&amp;リペアお任せください 〒251-0055 藤沢市南藤沢2-1-1フジサワ名店ビル2F tel:0466-26-3870 fax:0466-26-8390</p>
<p>セントラルモータープール 代表 田中 重光 (昭和61年卒) 〒251-0035 藤沢市片瀬海岸1-11-13 TEL: 0466-28-7311</p>	<p>有限会社 国分屋 代表取締役 飯田 圭太 (昭和60年卒) 〒252-0816 藤沢市遠藤728番地の7 TEL: 0466-87-8832 FAX: 0466-87-8836 e-mail: info@kokubuya.com http://www.kokubuya.com</p>
<p>市島徹社会保険労務士事務所 代表 市島 徹 (昭和62年卒) 〒251-0037 藤沢市鶴沼海岸1-8-20 TEL: 0466-37-0071 http://www.ichijima-labor.com/</p>	<p>日本精麦株式会社 代表取締役 田中 重光 (昭和61年卒) 〒253-0114 高座郡寒川町田端1590-5 TEL: 0467-72-3620 FAX: 0467-74-2002</p>

■室内楽部

私たち室内楽部は2年生2名、1年生5名の計7名で



はにぎやかに活動していません。この会報が皆様の手に届くころには大勢の1年生が入部して、もっと大勢で活動できています。部員が大勢いると自分がお手前で見ている時にたくさん人のお手前をたくさん見ることができるようになります。いろいろなお茶会にも参加させていただきます。今年度は文化祭の年ですので、部員一同先輩方のお越しをお待ちしています。部員たちが積極的に活動し、茶道部を盛り上げて行きたいです。

■吹奏楽部

3年生19人、2年生15人の計34人(4/1時点)で楽しく活動しています。昨年度は、県南吹奏楽コンクールにて銀賞、アンサンブル県南大会では、フルート四重奏・サククス五重奏ともに金賞をいただき、サククス



活動しています。昨年から弦楽器だけでなく、管楽器の募集を開始し、定期演奏会も実施するようになりました。現在、ヴァイオリン2名、ヴィオラ1名、チェロ1名、フルート1名で演奏をしています。新1年生を迎え、今年からはさらに多くの場で演奏をしていきたいと思っています。まずは目指せ！部員10名以上！！

■美術部

私たちは昨年、恒例の「鈴木病院文化祭」での展示だけでなく、江ノ電鎌倉高校前駅の中にある自動販売機のデザインをしました。兼部率が高く、それぞれが忙しいなかでの大変な作



ス五重奏はその先の県大会にて銀賞を受賞しました。その他にも腰越みなどまつり、テレジア病院公演(「元氣の出る演奏会」)など、地域のイベントにも積極的に参加させていただきました。現在は夏のコンクールに向けて毎日練習しています。今年度は、昨年度よりも良い結果が残せるよう引き続き努力してまいりますので、応援よろしくお願いします。



<p><b>株式会社 重田 工 芸</b>                  代表取締役 <b>重田 博章</b> (平成元年卒)                  〒252-0816 藤沢市遠藤298-6                  TEL: 0466-88-6880 <a href="http://www.shigeta-kougei.com">http://www.shigeta-kougei.com</a></p>
<p><b>藤沢市役所 日坂会</b>                  190人の会員が元気でがんばっています！</p>

業でしたが、一人一人の力が合わさった良い作品になったと思います。鎌倉高校前駅にいらっしやる際はぜひ見ていただければと思います。また、今年文化祭の年なので、一人一人頑張つて作品を作っています。今までよりパワーアップした美術部をお見せしたいと思います。



● ● ● ● ●  
**同好会**

■合唱同好会 (g i e e)

昨年1年間は私たちにとつても濃い年でした。新入生歓迎会に始まり、夏とクリスマス会の校内コンサート、深沢こども園での発表、七里ヶ浜自治会の納涼祭、横浜大根橋「くじ

らのおなかアフタヌーンコンサート」での発表と校外での活動にも挑戦しました。どれも初めてのことが多かったので緊張しましたが、たくさんの方々の温かいお言葉に力をもらいました。今年はより多くの新入部員を迎え、活動の幅を広げていくことを目標に頑張ります。



■KBS同好会

お昼休みの放送をはじめ、全校集会で校歌を流したり、マイクをセッティングするなどの放送関係を主に活動しています。昨年、体育祭で競技のアナウンスやカラパフォーダンスのコメントを読んだり、ダンス部

の校内発表の音響と照明など様々な場面で活動しました。また、1年生を中心に放送の大会にも出場しました。今年はずっと鎌倉高生に楽しんでもらえるような放送を企画して提供していきたいです。



■日本語の歌を歌う会 (日歌会)

昨年度、日歌会は多くのライブを行いました。例年行っている夏・冬の校内ライブに加え、秋の校内ライブや他校との合同ライブを実施し、



音楽の繋がりを広げることができました。今年度もたくさんの練習をし、多くのライブを行えるよう頑張っていきたいです!

● ● ● ● ●  
**生徒会執行部**

私たち生徒会執行部は、今年度「move! 生徒会!」をテーマに去年より多くの活動を行いました。行事の運営を中心に、部活動予算や四校連携、体育祭・文化祭の隔年実施の廃止なども検討しました。また、来年からは「インターアクトクラブ」への参加も決意し、来年度はさらに「move!」していきましょうと思います。



平成26(2014)年度 進路状況概況

(注) 合は合計数 現は現役生の数です。

大 学 名	2015	
	合	現
武蔵野大	1	0
武蔵野美大	1	1
明治大	79	61
明治学院大	39	34
目白大	1	1
立教大	61	49
立正大	1	1
立命館大	5	2
早稲田大	34	29
神奈川大	14	9
神奈川工科大	5	3
鎌倉女子大	4	3
学習院女子大	2	2
関東学院大	6	6
共立女子大	2	2
駒澤女子大	1	1
清泉女子大	2	2
東洋英和女学大	3	2
横浜薬大	2	2
同志社大	4	4
立命館大	5	2
関西大	1	0
<b>私立大学合計</b>	<b>790</b>	<b>630</b>
<b>文部省所管外</b>		
水産大学校	1	0
<b>公立短期大学</b>		
<b>私立短期大学</b>		
青山学院女短	3	3
鶴見大短	1	1
昭和音大短	2	2
創価大女短	1	1
<b>そ の 他</b>		
専門学校	4	4
海外大学	1	1

大 学 名	2015	
	合	現
芝浦工大	15	6
上智大	13	12
昭和女子大	6	6
昭和薬大	1	1
女子美大	1	1
専修大	13	11
成蹊大	12	8
成城大	14	9
創価大	8	8
玉川大	14	12
多摩美大	6	6
中央大	46	41
中京大	1	1
帝京大	6	4
東海大	9	9
東京医療保健大	1	1
東京音楽大	1	1
東京家政大	1	1
東京家政学院大	1	1
東京経大	1	0
東京工科大	4	3
東京工芸大	2	2
東京女子大	1	1
フェリス女大	7	6
東京電機大	3	3
東京農大	20	18
東京薬大	4	3
東京理大	19	14
東邦大	2	0
東洋大	15	13
獨協大	1	1
二松学舎大	2	2
日本大	64	44
日本獣医生命大	1	0
日本女子大	3	3
日本女子体育大	1	1
法政大	55	45
東京都市大	26	20
武蔵大	2	2

大 学 名	2015	
	合	現
<b>国立大学</b>		
帯広畜産大	1	1
宇都宮大	1	0
筑波大	2	2
東京海洋大	2	0
東京芸術大	1	1
電気通信大	1	0
横浜国立大	6	4
静岡岡大	1	0
岐阜大	1	0
長崎大	1	0
琉球大	1	1
<b>国立大学合計</b>	<b>18</b>	<b>9</b>
<b>公立大学</b>		
首都大東京	2	2
横浜市立大	5	5
神奈川保福大	1	1
会津大	1	1
金沢市立美術工芸大	1	1
大阪府立大	1	1
都留文科大	1	1
<b>公立大学合計</b>	<b>12</b>	<b>12</b>
<b>私立大学</b>		
東京福祉大	1	1
帝京平成大	3	2
麻布大	2	1
青山学院大	41	37
桜美林大	1	1
学習院大	9	7
北里大	11	9
杏林大	2	1
慶応大	13	7
工学院大	1	1
国学院大	3	3
国士舘大	1	0
駒澤大	23	20
産業能率大	4	4

※ このデータは平成27年3月31日締めのもので、今後変動する場合があります。



〈収入の部〉

項 目	予算額 a	決算額 b	増減額 b - a
繰越金	4,047,625	4,047,625	0
入会金	1,380,000	1,385,000	5,000
利息	500	349	▲ 151
協賛金	2,500,000	3,964,646	1,464,646
寄付	0	37,453	37,453
<b>合 計</b>	<b>7,928,125</b>	<b>9,435,073</b>	<b>1,506,948</b>

〈特別会計（周年行事積立金）〉

〈収入の部〉

項 目	予算額 a	決算額 b	増減額 b - a
繰越金	980,563	980,563	0
積立金	200,000	200,000	0
寄付	0	0	0
利息	100	100	0
<b>合 計</b>	<b>1,180,663</b>	<b>1,180,663</b>	<b>0</b>

〈支出の部〉

項 目	予算額 a	決算額 b	増減額 b - a
会議費	20,000	0	▲ 20,000
会報費	3,500,000	3,586,627	86,627
通信費	200,000	94,898	▲ 105,102
部活動補助	700,000	424,000	▲ 276,000
卒業記念品	220,000	210,960	▲ 9,040
設備整備費	300,000	241,248	▲ 58,752
交通費	50,000	33,000	▲ 17,000
事業費	100,000	61,944	▲ 38,056
部室等補修費	1,500,000	1,498,404	▲ 1,596
雑費	30,000	20,560	▲ 9,440
周年行事積立金	200,000	200,000	0
次年度繰越金	1,108,125	3,066,432	1,958,307
<b>合 計</b>	<b>7,928,125</b>	<b>9,438,073</b>	<b>1,509,948</b>

会計監査の結果、  
上記の通りであることをご報告します。

会計監査 新居 正雄  
富田 達

平成26年度  
決算報告

〈収入の部〉

項 目	予算額 a	前年度 予算額 b	増減額 b - a
繰越金	3,066,432	4,047,625	981,193
入会金	1,400,000	1,380,000	▲ 20,000
利息	500	500	0
協賛金	3,600,000	2,500,000	▲ 1,100,000
寄付	0	0	0
<b>合 計</b>	<b>8,066,932</b>	<b>7,928,125</b>	<b>▲ 138,807</b>

〈特別会計（周年行事積立金）〉

〈収入の部〉

項 目	予算額 a	前年度 予算額 b	増減額 b - a
繰越金	1,180,663	980,563	▲ 200,100
積立金	200,000	200,000	0
寄付	0	0	0
利息	100	100	0
<b>合 計</b>	<b>1,380,763</b>	<b>1,180,663</b>	<b>▲ 200,100</b>

〈支出の部〉

項 目	予算額 a	前年度 予算額 b	増減額 b - a
会議費	0	20,000	20,000
会報費	3,000,000	3,500,000	500,000
通信費	250,000	200,000	▲ 50,000
部活動補助	300,000	700,000	400,000
卒業記念品	210,000	220,000	10,000
設備整備費	250,000	300,000	50,000
交通費	50,000	50,000	0
事業費	200,000	100,000	▲ 100,000
部室等補修費	2,800,000	1,500,000	▲ 1,300,000
雑費	30,000	30,000	0
周年行事積立金	200,000	200,000	0
予備費	776,932	1,108,125	331,193
<b>合 計</b>	<b>8,066,932</b>	<b>7,928,125</b>	<b>▲ 138,807</b>

備 考

会報費：「うしお」印刷費・送料  
通信費：電話代・OCN 利用料・切手代  
部活動補助：関東大会及び全国大会出場祝い、ボール等備品補助  
設備整備費：ホームページ管理費用 プリンタートナー代  
交通費：ボランティア交通費  
事業費：同窓会・部活 OB / OG 会応援金  
雑費：事務所経費

平成27年度  
収支予算(案)

※平成 26 年度会計決算報告及び平成 27 年度会計予算は、平成 27 年 6 月 27 日に開催されるうしお会総会において審議されるものです。尚、審議の結果修正された場合は、同窓会ホームページでお知らせ致します。

徳永子	古田	横山	S16	永塚	重政	S15	馬飼	S14	安藤	S13	鈴木	S12	斉藤	S10	鈴木	S9	井出	山村	蓑島	池田	佐藤	福島	伊藤	長谷	島田	荒川	藤田	鈴木	落合	福井	小嶋	旧職員					
み	光	葉		ト	留	ユ	野	政	信	元	ソ	ノ	英	造	滋	ト	猛	子	夫	淳	子	夫	良	武	國	義	雄	孝	進	男							
S24	原三橋	S23	細川	加藤	猪熊	S22	堀場	後藤	S21	松本	土屋	S20	齊藤	東藤	狐塚	S19	真壁	日置	榎本	遠藤	河内	青木	須藤	S18	鈴木	石渡	高橋	安田	S17	芹沢	宗						
マ	泰		ゆ	喜	勢	き	節	節	テ	ツ	雅	妙	重	昌	節	照	春	松	俊	幸	幸	美	鶴	子	力	ミ	美	富	智	尾							
ツ	子		子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	江	江	枝	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子						
森戸	岩田	磯野	川野	田久	清保	関延	塚紀	小島	磯部	山ノ	山内	門田	坂崎	関根	S28	小林	前田	鈴木	太田	今井	田中	河合	S27	齋藤	加藤	荒井	奥田	S26	林綾	森芳	佐藤	S25	新行				
ミ	唯	吉	弘	夜	子	子	道	敦	幸	弘	清	文	宏	智	江	千	雅	從	幸	孝	千	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子			
工	志	子	之	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子			
小	工	神	金	山	中	佐	藤	高	新	太	森	大	当	山	甘	添	吉	四	高	丸	鈴	林	相	梅	中	田	S29	松山	佐武	丸岡	内海	中野	磯				
田	藤	谷	山	崎	村	木	知	美	隆	明	子	枝	一	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	昭	美	初	京	須	正	子				
や	弘	達	勝	り	育	知	美																														
ひ	道	夫	郎	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子		
小	竹	佐	松	八	小	柴	塚	関	小	S31	福	根	大	山	平	金	小	松	長	藤	土	高	佐	廣	横	河	讀	鈴	高	中	中	S30	小				
岩	井	田	原	木	林	田	公	徹	二	子	夫	彦	弘	一	子	能	彦	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子		
加	一	丸	郎	美	郎	章	清	子	男																												
新	大	犬	柳	青	田	森	佐	小	深	伊	永	北	西	山	坊	S32	井	松	丸	岩	山	小	足	赤	野	白	齋	辻	梶	吉	宮	伊					
倉	井	塚	原	木	上	池	幸	以	淳	淳	欣	明	多	啓	弘	夫	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
緋	信	義		計	綾	幸																															
子	明	孝	康	優	三	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
唐	白	小	宮	白	横	大	中	岡	古	岡	松	金	山	加	中	河	S33	藤	糸	原	石	西	小	加	四	藤	戸	渡	勝	小	城	宮	安				
沢	石	泉	上	石	田	谷	野	山	恵	明	和	秀	敬	博	善	安	靖	郁	シ	教	之	汎	雄	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
曄	政	康	ヤ	幸	昭	明	以																														
子	子	明	子	久	子	彦	夫	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
富	西	三	尾	石	小	鈴	加	八	永	恩	若	木	橋	原	中	岡	藤	前	大	森	内	更	野	広	S34	石	西	堀	石	戸	高	小	森				
田	村	村	山	渡	泉	木	澤	藤	木	田	田	菜	下	爪	田	浜	崎	井	澤	倉	貞		正	守	紀	邦	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	
鎮	治	輝	雅	寛	敦	典	敏	清	周	子	次	司	義	夫	彦	親	代	均	頭	夫	勝	至	紀	邦													
敬	子	彦	瑛	彦	治	雄	尚	平	恵	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
高	三	脇	久	吉	高	和	吉	S35	鈴木	磯	井	山	水	加	小	高	田	松	荒	志	舟	小	奴	手	城	田	石	横	廣	小	近	北	山	小			
島	神	坂	保	田	橋	知	良		木	部	関	勢	島	規	紘	久	典	宏	宏	慶	紀	野	田	不	悦	正	敦	寿	優	二	明	子	子	子	子	子	
和	典	正	清	汎	昭	弘			隆	康	ど	耕	規	紘	久																						
子	子	彦	良	子	光	子	宏		夫	男	り	一	夫	一	雄	子	代	承	子	文	子	郎	夫	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子

協賛金納入者

(2015年3月31日)

納入件数：1,257件

納入金額：3,887,422円

ご協力ありがとうございました。





青由山三角秋加加田中合円加齋菊荒鈴石 S 小横米丹長鈴中菊鈴藤清平山田荻永永鈴大渥  
 木井本戸田沢藤村中村田道し藤藤池川木丸 57 野山倉羽川美也長島地木本水野あか千規大雪壯美樹  
 美英之森昌道敦真麻の憲長子雄二成 恵明子子子子子美功弘介之一ね清織彦志路一香子  
 子夫信徹淳代則子澄元里ぶ憲長子雄二成 恵明子子子子子美功弘介之一ね清織彦志路一香子

遊光高長加 S 松秦中立船小芹神上畑 S 高鎮岩水千ホ土岩横正和伊中田清知渡三坂平 S 石  
 佐益島山藤 60 澤誠村野越西山中 59 橋西澤上葉 | 肥崎瀬木田東西中水見辺惠奈千 8  
 由一夏明 一哲瑞龍 / 由裕千克 良 一佳香桂邦佳 京良晶紀哲孝美緒夏 宏  
 巖紀紀子子進郎誠州保一司愛海 彰洋美子里子彦子隆滋子樹子子也穂代子子子 尚

柳竹石上内小阿小樋遠松鈴津相 S 山小田川富新野 S 遠加荒緑森柳石高関大市古山土田桑  
 原居川森藤澤部飼口藤長木田沢 62 田野中端士本倉 61 藤藤井川満沢川砂根竹川久和純友晋  
 延正公真貴素花直 泰章さ洋 達 貴良 治 則淳健美 晋吉英博美和純友晋  
 枝浩一吾子子子美博宏幸夫ほ一 嗣哉利士一聡子 子一介明子徹淳平晃祐之子宏子行司

小西安柴山水近 H 加須小須小益堀小室山陶齋細服岩 H 佐高及石伊田中戸 S 藤河栗福新井  
 又場達崎本上藤 2 藤見川藤海山井野井村山藤田部と恭 1 藤橋川渡龍太由呂 63 原口村知千  
 し由智宗正太 敬正計浩祐隆晃史美崇 武達も 朗 み 操郎子康子り子真冬尚宏  
 み也子則吾紀郎 子永介平資太夫生香之明晴也子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

岡 H 倉岩福 H 宮佐 H 松新浜木草長 H 阿伊江 H 沼早眞浅 H 阿塚仲小後 H 倉大 吉 H 西小仁石  
 崎 10 田澤室 9 田藤 8 浦谷本村川瀬 7 部藤尻 6 上川 5 部本 4 本 3 村林平井  
 健一洋 和博 典晓宏孝 藤 治 一 弦 禎祐 貴浩晓賢一 委直 麻未美克  
 愛 造郎之 久之 郎也子子子夫徹 子薰史 郎崇久一 行貴子司郎 妙義美 理季香典

H 齊杉小武 H 深佐萩 H 龍土四石森 H 山伊中 H 乙幡 小石多角 H 森 H 小 H 小 H 小 H 石 H 落  
 21 藤田野塚 20 堀藤野 18 前肥居輪 17 田東川 16 幅 池井田田 15 14 13 城井 12 賀渡木 11 合  
 有真健 夢裕谷 唯謙仁雄 哲 紗聖泉 16 幅 池井田田 15 14 13 城井 12 賀渡木 11 合  
 美規太晃 衣作翠 似仁美介也 織美穂 里 晴直祥武 友 裕健 野清重 健

土渡 H 金飯林古新武白伊岡宮鈴 H 城石深中大中 H 中数大塩若夏後藤 H 大塩奥田 H 石北庄  
 屋邊 26 井尾 園倉藤井東本崎 木悠 25 戸田堀村谷原 24 山田鋸田本目 23 塚田村中 22 神川司  
 里雄 清高愛 健央 英優 里 陽景直実玄 京亮雄将 一美 隼友大哲 愛有  
 紗真 郎佐美誠太朗誠子貴陸子 翔子應斗李太 子介介平峻奎朗咲 人美樹人 昂佳希



平熊井池高池末古塩加伊山望南桐北泉水坂長  
 戸谷上谷橋ノ崎川手藤藤田月條ヶ村田谷本谷  
 良 綾里佳太 広と直り歩彩友谷美成々  
 尚繁拳乃佳美郎大み輝か実花輝葵佐美星平紗

内訳：ゆうちょ銀行へのお振込み	561件	1,679,460円
コンビニエンスストアでのお振込み	657件	1,857,384円
横浜銀行へのお振込みおよび現金	39件	350,578円
参考：2014年度は	1,175件	3,680,315円

## 平成27年度総会&懇親会のお知らせ

昨年も6月に総会、懇親会を行い、幅広い年代の多くの方にご参加いただき楽しく過ごすことが出来ました。

本年も、以下の通り総会&懇親会を行います。多くの方にご参加いただき、新しいうしお会の方向を話し合いましょう。懇親会バーベキューには、今回も、多くの方々にご参加いただきたくご案内申し上げます。

### ■ 平成27年度総会 ■

以下の日程で行われます。

日 時：平成27年6月27日(土) 11:00~12:00

場 所：神奈川県立鎌倉高校国際理解ホール  
(旧図書館の場所)

対 象：うしお会会員（鎌倉高校卒業生）  
でしたらどなたでも

議 事：(1) 平成26年度事業報告について  
(2) 平成26年度会計決算報告について  
(3) 平成26年度会計監査報告について  
(4) 平成27年度事業計画案について  
(5) 平成27年度会計予算案について  
(6) 平成27年度・平成28年度  
役員について  
(7) その他



写真は昨年6月の様子

## うしお会 懇親バーベキュー大会のご案内

今年度も、総会終了後、懇親会を開催します。晴天ならば屋外でバーベキューを行います。年齢を超えた先輩後輩の親睦を深めましょう!!

日 時：平成27年6月27日(土) 総会終了後12:30頃から

場 所：神奈川県立鎌倉高校国際理解ホール前の中庭（雨天の場合はホール内）

対 象：うしお会会員（鎌倉高校卒業生）でしたらどなたでもご出席いただきたく存じます。  
また、ご家族の皆様もお連れ下さい。

参加費：1,000円（小学生以下無料）

申込み：うしお会のホームページよりメールフォームまたはファックスにてお申し込み下さい。



昨年6月の記念撮影

### 役員役割分担

会長	鈴木勝貴 (S45年卒)	総括
副会長	増田隆之 (S40年卒)	総務担当
副会長	森田豊文 (S41年卒)	会報担当
副会長	深澤隆史 (S41年卒)	会計担当
会計監査	新居正雄 (S41年卒)	
書記	高橋建二 (S46年卒)	総務(運営担当)
書記	堀英彦 (S46年卒)	総務(名簿担当)
書記	渡辺晃 (S47年卒)	総務
書記	峰治 (S56年卒)	総務
書記	渡邊葉子 (S62年卒)	総務
書記	新田尚 (S62年卒)	会報
書記	桜井淳 (S55年卒)	ホームページ
書記	奥蘭千栄子 (S48年卒)	会報
書記	富田朝子 (S49年卒)	会報
書記	叢秀樹 (S51年卒)	会報
書記	石橋淳 (S51年卒)	会報
書記	田川由佳 (S54年卒)	会報

書記 安井弘子 (H4年卒) 会報  
書記 梅津美葉 (H5年卒) 会報

顧問 滝沢茂男 (S41年卒)

※役員役割分担は、平成27年6月27日に開催されるうしお会総会において審議されるものです。尚、審議の結果修正された場合は、同窓会 ホームページでお知らせ致します。

### 学校側役員

校長 真壁広道  
副校長 石川雅之  
総務教諭 矢島俊也

## 「みんなで作ろううしお」…投稿・ご意見募集!!

同窓会「うしお会」は、県立鎌倉高校を卒業した方なら、卒業と同時にめれなく会員となっております。在学中、楽しかった人も楽しくなかった人も、卒業後は新たに世代を超えた先輩・後輩・同輩との交流ができることと思います。世代は違っても、鎌高らしい自由でユーモアあふれる仲間と、同窓会「うしお会」を通してリンク(つながって)していきたいと思います!! 会では、会報誌「うしお」や同

### 編集後記

今までのうしおには、総会で審議されました会計報告を記載していただきました。そうすると会計決算報告については2年前、会計予算については昨年のデータとなり、データとしては古いデータとなっていました。今回のうしおからは、会計報告の内容を実際に総会にて審議されます内容、つまり昨年の会計決算報告及び今年の会計予算を記載することにいたします。これにより、総会での最新会計報告の内容を事前に皆様にお知らせできる事になります。

窓会ホームページをもっと沢山の方々に利用し、楽しみ、仲間の輪を広げていただきたいと思います。そこで、「みんなで作ろううしお」と題して、投稿やご意見を募集しております。同窓会でこんな行事してほしい。(講演会、合唱コンクール!?: : e t c)活躍する鎌高卒業生、鎌高卒の有名人、鎌高卒の方のお店紹介。私こんなことやってます。是非見て、聞

### ❖ 広告募集 ❖

会報「うしお」の広告を募集しております。厳しい経済環境ではありますが、会員皆様のより一層のご協力とご理解を、お願い申し上げる次第です。

- 料金 / 一 枠 : 10,000円
- お問い合わせ先 : うしお会 広告事務局  
☎ 0466-25-1035  
✉ pet@toretate-shonan.com

いて… 等等。こんな記事があったら、こんなコーナーがあったら盛り上がるよ、というような事ありましたら同窓会までお知らせください。お待ちしております。  
県立鎌倉高校同窓会「うしお会」事務局  
メール :  
Email:kamako@ceres.ocn.ne.jp  
Fax : 〇四六七-三九一三六八  
ホームページアドレス :  
http://www.ushiokai.net.

## インターネットでどんどん広がる「うしお会」

<http://ushiokai.net>

うしお会

で検索!

会報誌「うしお」のウェブ配信はもちろん、同窓会情報など多くの同窓生にとって、いつも新しい情報が掲載されていて、アクセスするのが楽しいホームページです。

### ポイント!!

1. 会報誌「うしお」が配信されています。
2. 住所が変わった方から簡単にご報告いただけます。
3. 各年代で行われる、または行われた同窓会情報をご覧いただけます。
4. 同窓会情報のページはインターネット上で情報交換が可能です。
5. 鎌高公式サイトの最新情報も自動的に更新されます。
6. facebook でも「うしお会」仲間がグループを作って情報交換中です!

facebook を楽しんでいる人達の間で自然発生的に出来上がった「鎌高 OB・OG の facebook のグループ」には現在約 160 人超のうしお会の会員が参加しています。

ここでは日々の鎌高 OG、OG の活躍の話題などが情報交換され、そして年代を超えたソーシャルネットワーク上のコミュニケーションが行われています。

「友達を検索」してみてください!!

## うしお会事務局のボランティアを募集しています!

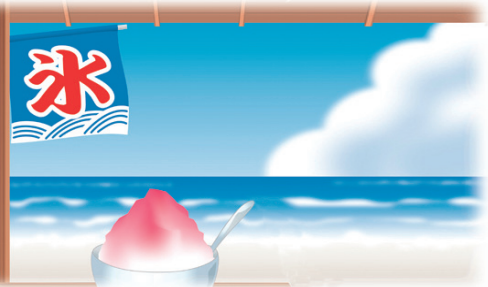
E-mail: [kamako@ceres.ocn.ne.jp](mailto:kamako@ceres.ocn.ne.jp)

<<mailto:kamako@ceres.ocn.ne.jp>>



発行所  
 二〇一四(平成26)年  
 五月三〇日

発行所  
 神奈川県立  
 鎌倉高等学校・同窓会  
 鎌倉市七里ヶ浜 潮会  
 二一二十一  
 〇四六七  
 三二一四八五一  
 事務局直通  
 (TEL/FAX)  
 〇四六七  
 三九一三六六八



<http://www.ushiokai.net>

E-mail: [kamako@ceres.ocn.ne.jp](mailto:kamako@ceres.ocn.ne.jp)

お名前とメールアドレスをご連絡ください。  
 事務局からご招待のメールをお送りいたします。